

# 千種高校展望

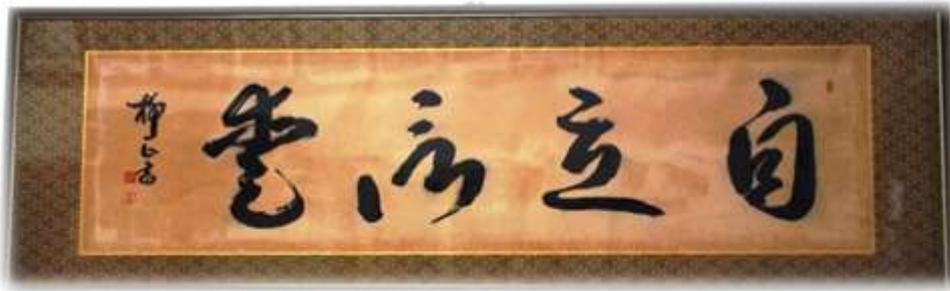
第87号（復刊第1号）

— 平成24年度活動の記録 —

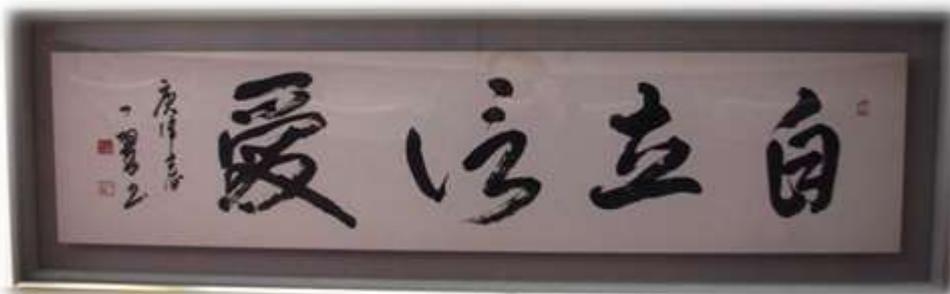


兵庫県立千種高等学校

# 校訓：自立 信愛



林 柳正（正男）先生 書（校長室）



山部 一翠（一之）先生 書（会議室）



校 訓 碑 揮 毫： 第 3 代 校 長 樫 本 玉 男 先 生  
寄 贈： 第 11 回 卒 業 生 一 同（昭 和 61 年 3 月）

校 訓「自 立・信 愛」（昭 和 5 5 年 2 月 2 5 日 制 定）

「校訓の「自立・信愛」の精神は、21世紀に生きる人間の指標でございます。自らに対しては厳しく律して立ち、他に対しては温かく敬愛し信頼し、ともに生きる人づくりのために、ますます努力してまいりたいと思います。」

第4代校長 上山 勝 先生

「学校開設40周年記念誌」（昭和63年11月27日発行）より抜粋

# 目 次

I	はじめに..... 校長 浅田尚宏	3
II	平成24年度学校概要.....	4
III	各部署の取組	
	1 インスパイア・ハイスクール事業.....	5
	2 中高連携環境美化活動.....	6
	3 中高連携講演会.....	7
	4 オープンハイスクール.....	8
	5 千種保幼小中高合同「ふれあい文化祭」.....	9
	6 オープンスクール.....	10
	7 防災訓練.....	11
	8 「総合的な学習の時間」インプロ学習実施記録.....	12
	9 (1) 中高連携授業記録<数学科>.....	13
	(2) 小高連携授業記録<理科>.....	14
	(3) 中高連携授業記録<保健体育科>.....	15
10	中高連携補習授業の記録<国語・数学・英語>.....	16
11	アクティブ授業(内)(外)の記録.....	17
12	平成24年度生徒指導の概要.....	19
13	平成24年度高校生心のサポートシステム実践研究.....	20
14	山と海の学校間交流(家島高校との交流記録).....	22
15	第38回千種高校文化祭.....	23
16	第38回千種高校体育大会.....	24
17	第4回千種中高連携マラソン大会.....	25
18	生徒会主催「百人一首大会」.....	26
19	千種中高連携生徒会執行部ミーティング.....	27
20	第38回生進路状況報告.....	28
21	平成24年度実施模擬試験・進路検討会の記録.....	29
22	平成24年度実施の健康教育.....	30
23	平成24年度身体測定記録.....	32
24	平成24年度教育相談活動(キャンパスカウンセリングの記録).....	33
25	平成24年度人権教育の記録.....	34
26	第1学年「皆生・大山野外活動」.....	35
27	第1学年「就業体験」.....	36
28	第39回生修学旅行.....	37
29	中高連携社会科企業見学(第2学年).....	39
30	第38回生3年間の取組について.....	40
31	平成23・24年度消費者教育推進のあゆみ.....	41
IV	各教科の取組	
	1 漢字能力検定実施の記録.....	43
	2 数学検定での取組.....	44
	3 英語検定及び英検対策講座実施の記録.....	45
V	部活動の取組―光る汗・輝く瞳・草魂千種の活動記録―	
	1 硬式野球部.....	46
	2 スキー部.....	46
	3 男子バレーボール部.....	47
	4 女子バレーボール部.....	48
	5 ソフトボール部.....	49
	6 ゴルフ部.....	50
	7 ライフル射撃部.....	51
	8 サッカー部.....	52
	9 カルチャ一部(軽音楽).....	52
10	茶華道部.....	52
11	ボランティア部.....	53
12	パソコン部.....	53
VI	平成24年度式典の記録	
	1 入学式 校長式辞.....	54
	2 卒業証書授与式 (1) 校長式辞.....	55
	(2) 在校生送辞.....	56
	(3) 卒業生答辞.....	57
VII	平成24年度学校評価.....	59
VIII	平成24年度年間実施行事.....	61
IX	兵庫県立千種高等学校校歌の作詞者と作曲者について.....	62
	編集後記.....	66

## I はじめに

### 『信頼される学校をめざして』



県立千種高等学校

校長 浅田 尚宏

本校の教育活動の1年間の集大成といえる「展望」が復活することとなりました。中断の間、平成22年度から兵庫県下で初の『連携型中高一貫教育校』のモデル校となり、宍粟市立千種中学校との連携に取り組んで3年、順風の流れに乗り、たいへん活発な教育活動が展開されています。「環境美化活動」「文化祭」「体育大会」「講演会」などを合同で行う「連携行事」、それぞれの教員が中高に出向く「連携授業」、理科・社会科などでは中高生が共に学ぶ「協同学習」などの連携に取り組んできました。また、生徒の多様なニーズに対応するため、「チャレンジ」「ベーシック」「アクティブ」の3コースを設置し、生徒の個性・能力・進路希望に合わせ、幅広い教育内容を実践してきたことで、進路実績でも進学・就職ともにすばらしい成果をあげています。クラブ活動も、少人数ながら活発になり上位大会に出場する成果も上げています。さまざまな教育活動の場面で、地域の方々のご支援・ご理解をいただき、少人数だからこそできる丁寧な指導により、生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、夢や希望をかなえ、地域に貢献できる人づくりをめざし、「明るいあいさつ」と「さわやかな笑顔」が校風となり、純真・素朴な「千高生」が育っています。

今後も学校・家庭・地域と連携した特色ある教育活動を展開し、千種高校が地域の核としてますます元気になるよう、さらに『信頼される学校を目指して』総力を傾注してまいりますことを誓い、本号発刊にあたってのことばとします。

## Ⅱ 平成24年度 兵庫県立千種高等学校 学校概要

- 1 所在地 兵庫県宍粟市千種町千草727番地2  
〒671-3201 TEL 0790-76-2033(代) FAX 0790-76-2233  
位置 海拔 328.57m 東経 134度26分 北緯 35度8分
- 2 沿革 昭和23年10月1日 県立山崎高等学校千種分校(学級数1)として開設  
昭和50年4月1日 兵庫県立千種高等学校として独立  
昭和63年11月27日 学校開設40周年記念式典  
平成10年6月19日 学校開設50周年記念式典  
平成13年5月1日 文部科学省「研究開発学校」指定  
平成17年6月2日 文部科学省「コミュニティ・スクール推進事業調査  
研究校」指定  
平成19年4月1日 「県立高等学校小規模校活性化支援事業」指定  
平成20年6月21日 学校開設60周年記念文化祭開催  
平成22年4月1日 「連携型中高一貫教育校」に改編

### 3 教職員組織

校長 浅田尚宏  
教頭 原田尚昭  
事務長 花高 勉  
国語 久保田美賀子、大川夕貴、西川璃  
数学 照本和生、横瀬憲一  
英語 河島 健、松井利澄、田中孝英、坪内麻衣、Carl Thornton、Marcus Day  
理科 角野陽介、中村増男  
地歴公民 藤原正憲  
保健体育 福永順二郎、上山麻美  
商業情報 藤本聡子、高野安信  
家庭 中村かおり  
芸術 武野初美、野村直城  
養護 沼田真穂  
事務 橋本かすみ、池田幸司、徳田由美  
茶華道 小原千鶴子  
学校医 藤多和彦(内科)、横川浩己(眼科)、柴原豊弘(耳鼻科)、工藤桃子(歯科)  
薬剤師 田口 勉

### 4 在籍生徒数(平成24年5月1日現在)

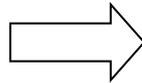
性別 \ 学年	1 学年	2 学年	3 学年	合 計
男 子	2 3	1 6	2 4	6 3
女 子	1 4	1 4	1 1	3 9
計	3 7	3 0	3 5	1 0 2

### Ⅲ 各部署の取組 1 インスパイア・ハイスクール事業

総務部

本事業の支援を受け、さまざまな中高連携・地域連携活動を実践することができました。

#### 1 中高連携「森林産業から学ぶ」(間伐[7月]→木工[2月])



突栗の森で間伐された木材を実際に加工し、町内で使ってもらう取組に参加できてうれしかった。(中1女)

#### 2 地域のサイエンスアカデミー(通年)・地域スポーツ教室(8月)



「水の電気分解の実験で水素の爆発音が楽しかった」(小6)



高校生のお兄さんはやっぱりうまいです。僕もあのようにになりたい(小5)

#### 3 バレーボールクリニック・ソフトボール教室(バレーボール6月・ソフトボール8月)



バレーがさらに好きになりました。千種高校に入学してさらに頑張ります(中3女)



「とても刺激的だった。もっとうまくなりたいと思った」(高2)



#### 4 中高連携社会科見学授業(12月・千種中2年生・千種高校2年生)



「三菱重工高砂製作所では、発電用ガスタービンの製造工程を見学。見たことのない巨大な物体の製造を人間の手技で行っていることに驚いた。世界は広いと思った。サントリープロダクツでは、機械の行う流れ作業に圧倒された。ペットボトルの進化を聞き、エコについて改めて考えさせられた。中高連携のおかげでいい経験ができました。(高2女)

## 2 中高連携環境美化活動

総務部

- 1 目的 中高連携事業、PTCA 奉仕活動の一環として、中高生と地域が協力、協働しながら清掃、美化活動をすることによって、校区内の環境問題について考える体験活動を行う。
- 2 日時 平成24年6月5日(火) A班：9:00~14:00 B班：13:10~14:40
- 3 場所 A班：志引峠 B班：校区内道路および周辺施設
- 4 参加者 **A班**：生徒：中3生39名、高1生37名、高2生30名 計106名  
 教員：中学4名 高校7名  
 一般：市民局、環境保全委員、高校PTA、千種高校を支援する会、地域
- B班**：生徒：中1生32名、高3生35名 計67名  
 教員：中学4名・高校4名
- 5 日程 **A班**：8:50 高校集合→出発式→9:00 出発→9:20 奥西山集落センター→  
 中3男女・高1女子はセンターから1.6km地点で作業、高1男子・高2  
 男女は頂上で作業。11:50 頂上にて全生徒合流[昼食]→12:40 閉校式  
 →下山開始→13:30 奥西山集落センター→14:00 頃 各校到着
- B班**：一部現地集合・現地解散(詳細は下記参照)

### 6 B班の班編成、清掃区域

班	清掃区域	中1男	中1女	高3男	高3女	計	付添職員
1	商店街・大広場・市民局・JA	2	2	2	2	8	原田千
2	自動車道・ローソン・エーガイヤ	2	2	2	2	8	菊川
3	バス車庫内→R429→二宮神社内	2	2	2	2	8	横瀬
4	大森神社(石段・境内) [現地集合解散]	5	2	6	0	13	久保田・平瀬
5	杉の子保育園 [現地集合解散]	5	2	6	2	15	上山麻
6	ちくさの郷 [現地集合解散]	6	0	6	3	15	上山昌
		22	10	24	11	67	

### <活動の様子>



### <案内チラシ>

平成24年度 第4回中高連携環境美化活動

**環境美化活動を行います!**

今年度も中高連携事業、PTCA活動の一環として環境美化を行います。高1・高2男子は奥西山集落センター付近、中1・中2男子は市民局・エーガイヤ付近で活動を行います。

**A班**  
 志引峠での不法投棄  
 廃棄物処理  
 (午会 中3・高1・2)

**B班**  
 町内のごみ拾い等  
 (午会 中1・高3)

【日 時】平成24年6月5日(火) <予備日 6月6日(水)>

<A班 志引峠での不法投棄処理>	<B班 千種中学校区内の清掃>
08:50~ 千種高校五輪集合・開校式	13:20~ 千種中学校五輪集合
09:00~ 出発(徒歩)	(一宮町集合)
10:00~ 峠中継での廃棄物処理	13:30~ 各校に分かれた作業
10:30~ 峠頂上での廃棄物処理	14:30 終了
11:50~ 峠頂上にて昼食・休養	
12:40~ 閉校式・下山	

【内 容】A班:志引峠の中継、峠頂上での不法投棄 B班:町内の美化活動  
 【参加者】千種高生・千種中生・PTA・市民局・千種高校を支援する会・地域の方々 等  
 【注 意】汚れてもよい服装、運動靴でご参加ください

町内の皆様、中高生と一緒に美化活動をお願いします(A班・B班どちらでも参加可)  
**A班にラッパ・コミュニケーションを出して下さる方を募集しています。**

問い合わせ先 高麗原立千種高等学校 五 76-2033 (TEL:河島)

### 3 中高連携講演会

総務部

千種中学校と千種高等学校は、「連携型中高一貫教育校」として改編されて以降、社会で活躍している方々の講演を合同で聴く機会を毎年持っている。平成24年度は、幼少年期の約10年間を戦時疎開の為にこの千種の地で過ごされた、興生運輸株式会社代表取締役会長の福下勝良（ふくした かつよし）様に講師として千種高校にお越しいただき、「千種の思い出 ～60年後輩の人たちに伝えたいこと～」と題して、懐かしい千種での思い出と共に、近い将来社会に出て行くために今何をしておかなければならないかということについて、中高生に対して熱く語っていただいた。

- 1 日時： 平成24年7月12日（木） 11：20～12：15
- 2 会場： 千種高等学校 体育館
- 3 対象： 千種中学校生徒 93名 千種高等学校生徒 102名  
一般・保護者 約20名
- 4 演題： 「千種の思い出 ～60年後輩の人たちに伝えたいこと～」



福下さんは、元々はこの千種のお生まれであるけれども、家庭の事情で幼年期に神戸に移られ、戦況の悪化と共に3歳頃再び千種に疎開の形で戻って来られ中学2年生までをこの千種で過ごされたのである。勿論、物の乏しい時代であり、空腹に耐える日々ではあったが、千種の友達と遊んだ山や川、野原での思い出は今でも福下さんの血となり肉となっており、その時に味わった「心の豊かさ」こそが、福下さんの「今」を形成しているのである。従って、「あなたのふるさととは？」と人に問われれば、それは「千種以外には考えられない。」というのが偽らざる気持ちであると語っていただいた。

中学2年生の時に、この千種を去られたが故に福下さんは、千種中学校の卒業生でもなく、ましてや千種高等学校の卒業生でもない。しかし、多感なる幼少年期の10年間を過ごされたその経験は常に福下さんの人生と共にあり、千種の地に対する追慕と感謝の念は神戸や大阪で暮らすようになられてからも決して消え去ることはなかったのである。その念あったればこそ、平成22年12月を皮切りに多額のご寄付を千種高校と千種中学校にいただいたのである。千種中学校では、そのご寄付を「勝良文庫」として整備し、読書活動の活性化に生かしている。また、千種高校は、部活動の充実や中高連携行事を中心とした学校教育活動の発展に大いに寄与する「福下基金」として整備し、活用させていただいている。この場をお借りして、改めて感謝申し上げたい。

ご講演の最後に福下さんは、特に就職を控えた高校生たちに向かって、目標設定をしっかりした上で学ぶことの大切さと、読書にいそしみ、文章の理解力や表現力を今の内に身につけて自分を磨いておくことが如何に大事であるかということ切々と訴えていただいた。千種をこよなく愛してくださる、この偉大なる先輩に接した中高生たちは大いなる感動をもって約1時間ばかりのご講演を聴き、今後出逢うであろう様々な困難にも果敢に立ち向かっていこうという決意を新たにしたのであった。



## 4 オープンハイスクール

総務部

1 日時 平成24年7月31日(火) 8:45~12:10

### 2 参加中学生

(7月20日現在)

中学校	千種中	山崎西	山崎東	山崎南	波賀中	一宮南	三土中	一宮北	その他	計
男	19	1	4	1	1				1	27
女	19	2	2					2		25
計	38	3	6	1	1			2	1	52

※「その他」は神戸市立有野中。これ以外に8月中に三土中から1名、京都府から1名の見学者があった。

### 3 日程

時刻	項目	実施内容			場所	備考
8:30~ 8:40	受付				生徒玄関	生徒会・職員
8:45~ 9:25	開 会 行 事	1 挨拶(3分) 2 学校全般紹介(8分) 3 教育課程について(10分) 4 部活動・生徒会紹介(14分) 5 質疑応答(5分)	校長 教頭 教務部長 生徒会		視聴覚室	校長 教頭 久保田 生徒会 河島
9:25~10:00	見学	部活動見学等			グラウンド 体育館	生徒会誘導 3班編制
10:15~11:00 希望選択	授業体験 ①	【体育】 担当：福永 楽しく宙返り 13	【数学】 担当：横瀬 ハノイの塔(パズル) 10	【日本史】 担当：藤原 徳川綱吉の時代 29		
11:15~12:00 希望選択	授業体験 ②	【古典】 担当：久保田 宇治拾遺物語 19	【英語】 担当：田中 高校英語へようこそ 12	【理科実験】 担当：角野 ブルーボトル反応 13	【アクティブ】担 当：藤本 糸のこ木工作品 8	
12:00~12:10	教室ごとにアンケート記入後解散					



## 5 千種保幼小中高合同「ふれあい文化祭」

総務部

### 1 目的：

- ① 保幼小中高による合同文化祭（合同行事）を実施することにより、連携のあり方についてさらに研究を深める。
- ② 園児・小学校児童・中学校・高校生徒による合同文化祭をとおして、子どもの縦、横の交流を進める。
- ③ 合同文化祭を開催することにより、保幼小中高の連携の良さを保護者・地域住民のみなさんに理解してもらう。

2 日時： 平成24年11月4日（日）8時50分開演（午後は小中合同文化祭）

3 会場： 千種小学校体育館

### 4 プログラム（内容等）：

【午前の部】 —保幼小中高合同文化祭— 【8：50 開演】

#### 1 開会

- (1) 代表校長あいさつ（千種中学校長 喜多英雄…幼小中連携担当校長）
- (2) 園児・児童・生徒代表あいさつ（千種中学校 生徒会長 金本 崇）

#### 2 千種中学校

英語スピーチ「SNACKS（スナック）」（3年工藤雄蔵）  
英語スピーチ「Tatara（たたら）」（3年梅本万輝）

#### 3 千種高等学校

体験発表「宍粟観光体験高校生レポーター活動に参加して」（2年小竹潤）

#### 4 千種杉の子保育園

和太鼓「はらっぱ太鼓」（4・5歳児）  
ダンス「good Boys & Girls」（4・5歳児）  
（保育園は発表後退出）

#### 5 千種幼稚園・千種高等学校連携

うた「あの青い空のように」（全園児）  
ダンス「千種の幼・高連携ソーラン2012」（全園児&高校2年生）  
（幼稚園は発表後退出）

#### 6 千種小学校

—アンサンブル—  
合奏「マル・マル・モリ・モリ」（3・4年生）  
合奏「I will Follow Him.」（5・6年生）  
合唱「校歌」（全校生）

◇ 千種町連合PTA会長あいさつ（千種南小PTA会長 小河 秀義）

#### 7 千種小学校

—演劇—  
「おたんじょうび おめでとう」（1年生）  
「プレーメンの音楽隊」（2年生）  
「ちいちゃんのかげおくり」（3年生）

#### 8 千種中学校・千種高吹奏楽部 「Rising Sun」他

#### 9 千種中学校 合唱「河口」（全校生徒）

#### 10 閉会

- (1) 校長あいさつ（県立千種高等学校長 浅田 尚宏）
- (2) 園児・児童・生徒代表あいさつ（千種高等学校代表 清水 彩奈）

### 5 参加園児・児童・生徒数（教員数）

杉の子保育園	20名（4名）	千種幼稚園	14名（4名）
千種小学校	143名（21名）	千種中学校	93名（14名）
千種高等学校	100名（15名）		



平成 24 年 11 月 11 日 (日) ~ 13 日 (火)

# 千種高等学校 オープンスクール 2012

## 11月11日 (日)

- ★宍粟市総合防災訓練参加 (午前・千種中グラウンド)
- ★公開授業 (12:50~14:30)
- ★**保護者対象セミナー** (15:00~16:00・場所当日連絡)

### ファイナンシャルプランナー石橋知也氏講演会

「高校生の親として知っておくべきこと  
～履歴書の書き方・進学費用の工面について等～」

今年度のオープンスクールはPTAの協力を得て、休日を含む3日間で実施した。公開授業以外に地域・保護者が参加する一般講座を開講した。初日の「保護者対象セミナー」は中高の保護者約30名、2日目「パソコン教室」は約10名、3日目「そば打ち体験」は約15名がそれぞれ参加した。各講座の様子及び感想等はPTA広報「敷草」70号をご覧ください。



いしはら ともや  
石橋知也氏 (昭和 47 年生)

#### 【経歴】

関西銀行 (現・関西アーバン銀行)  
入行 住宅ローンのほか、新規法人開拓を担当  
アクサ生命保険株式会社入社  
個人のライフプラン作成を担当  
現在は、執筆活動、年間 270 件の講演活動中。

#### 【テレビ出演】

2006 年 NHK「家計診断おすすめ  
悠々ライフ」

#### 【ラジオ出演】

2009 年 ラジオ関西「正木明 エコスタイル」他

#### 【著書】

「子どもの進路に悩む親の本」  
「年収 300 万円で子どもを大学に入れる方法」

## 11月12日 (月)

- ★公開授業 (1~5限)
- ★**心のサポート講演会**

(14:10~15:00・体育館)

講師 鹿多証道氏

演題 『寄り添うこころ』

妙正寺 (加古川) のご住職である鹿多氏は人権教育指導員・民生児童委員、さらには日本高校野球連盟審判規則委員として、甲子園の高校野球では審判部長も務められ、趣味も音楽から落語まで幅広く、内容豊かなお話を聞かせていただけます。事前申込は不要です。体育館にぜひお話を聞きにお越し下さい。



- ★**一般講座「パソコン教室」**

(15:30~17:00)

講師：藤本 聡子 (本校職員)

【特別棟 4 階コンピューター教室】



## 11月13日 (火)

- ★公開授業 (1~6限)

- ★**一般講座「そば打ち体験」**

15:30~17:00 (調理室)

講師：池谷真勝氏 (福海寺住職)

そば打ち体験を通じて、調理室が楽しい地域交流の場になります。ぜひご参加下さい。



# 7 防災訓練

総務部

※今年度は校内での訓練に加えて、地域と合同訓練（宍粟市総合防災訓練）を行った。

- 1 日時：平成24年11月11日（日）【校内】訓練 8:25~8:40・防災 HR8:45~9:10  
【地域】9:30~11:50（宍粟市総合防災訓練）
- 2 想定災害：地震よる火災（自動販売機が転倒し出火を想定）
- 3 避難場所：本校グラウンド（午後は千種中グラウンド）
- 4 避難経路：全学年本館入り口よりグラウンドへ避難
- 5 内容：



時間等	担当等	内容等	職員の対応等
08:25	担任	出欠の確認等	出席簿持参
08:27	放送	おおきな揺れを伴う地震が発生しました。生徒は落ち着いて先生の指示に従いなさい。状況を確認して、再度放送します。	放送（教頭）
08:30	担任	「先生の言うことを聞きなさい。余震のおそれがあるので、机の下にもぐりなさい。机の脚をしっかりとち、窓と反対側を向きなさい。」（高圧的指示でも可）	福永・藤原 保健室前へ。火災発見 河島 教頭・橋本さくらに連絡 福永・藤原 屋内消火栓で初期消火 橋本 119 通報（右頁参照） 教頭 非常ベル（教頭） 教員 各任務実行（右頁参照）
08:30	放送	非常ベル（計測開始・河島）	
08:30	担任	「保健室前の自動販売機から火災発生。先生の指示に従ってグラウンドへ避難しなさい」（放送：教頭） 「特棟を通過して生徒玄関からスリッパのままグラウンドへ出ます。その際、走らない、しゃべらないこと。〇〇君から順に廊下を出なさい。」（2・3年生も「特棟」経路）	特棟2階全生徒合流の為混雑
08:37		消化・消灯・窓しめ、カーテンあける（担任） 集合点呼・報告完了・整列待機。本館に向かって全校集会時と同じ隊形	担任 出席簿持ち出す 委員長→担任→教頭（副隊長）→校長（隊長） 【今回は教頭まで】
08:40	校長	自衛消防副隊長訓話（教頭）	進行：河島
08:45	移動	1年：生徒玄関から HR 教室へ 2年：職員玄関から HR 教室へ 3年：職員玄関から HR 教室へ	生徒玄関前で、砂を落とし、雑巾で靴のウラをぬぐう指示（照本・藤原・横瀬）
08:50	担任	防災 HR（資料「防災クイズ」活用）→9:10~更衣・WC	取り組み・解説
09:30	放送	「避難勧告発令、生徒はグラウンドに集合しなさい」	教頭
09:35	集合	訓練班別に点呼完了後、千種中へ避難途中ホース踏まない	HR 教室施錠（事務室）9:40
09:50	班別訓練	水防班（土嚢作成） 高2男・高3男（角野・藤原・福永・横瀬） 炊き出し班 高1女・高2女（久保田・藤本） 救命救護処置班 高1男・高3女（松井・黒本・田中） 終わった班は起震車等の体験コーナーへ	中学校正面玄関前に整列後、河島の指示で班別に行動
10:40	見学	消防防災ヘリコプター救急救出訓練見学	帽子吹き飛ばされないように
11:30		閉会式	
11:50	移動	学校へ	HR 教室解錠（事務室）11:45
12:50	授業	5限授業開始	

※天候不良の為「防災ヘリコプター」は出動されなかった。

## 8 「総合的な学習の時間」インプロ学習実施記録

教務部

本校でインプロ学習を取り入れて今年度で4年が経過し、本校の総合的な学習の時間の柱となっている。インプロとは「即興」を意味し、演劇等の芸術分野における表現方法の一つだが、多くの企業の社内研修で取り入れられる等注目されている。「エクササイズ」と呼ばれる各取組には「受け取る、伝える、共有する」というコミュニケーションには欠かせない要素が入っている。失敗してもすぐに笑って立ち上がれる強さ、人と遊び合える力、自己肯定、他者肯定できる力、一歩踏み出す勇気と行動力等、今を生きる力の育成を目指すものである。



### 1 「インプロ学習」授業時間

各学年年間8時間実施

### 2 特別非常勤講師及び担当時間

長谷中りえ氏 ・ 3h × 8回 計 24 時間担当

石見 幸三氏 ・ 3h × 4回 計 12 時間担当

### 3 学年別授業テーマ一覧

① 4 / 22 (日)	全学年 オリエンテーション (自分への手紙)
② 5 / 7 (月)	1年生 みんなと出会おう! 2年生 仲間を大切にする。 3年生 物語の協働作業
③ 5 / 21 (月)	1年生 失敗を楽しむ! 1 2年生 自分と仲間を大切にする。 3年生 物語の協働創作 (Give and take)
④ 6 / 25 (月)	1年生 失敗を楽しむ! 2 (インパルス) 2年生 他者に委ねる (トラストラン) 3年生 物語の協働創作 (Give and take)
⑤ 7 / 9 (月)	1年生 協力 (イルカの調教) 2年生 協力 (ツードッツ) 3年生 物語の協働作業 (ステイタス)
⑥ 9 / 4 (火)	1年生 伝える (信じて運ぶ) 2年生 伝える、共有する (伝言ゲーム) 3年生 物語の協働創作 (チームでチャレンジ)
⑦ 10 / 22 (月)	1年生 伝える、受け取る、共有する (信じて運ぶ) 2年生 身体をつかった協働作業 (伝える、受け取る、共有する) 3年生 YES and...
⑧ 10 / 29 (月)	1年生 言葉のない協働作業 (信じて見る) 2年生 まわりを感じてみる (Give and take) 3年生 YES and (遊びからの学び) 全学年 自分への手紙の返却

### 4 インプロの効果 (今年度の教員の評価)

- 1 人前で発表することがないから、貴重な体験になる。
- 2 生徒は積極的に取り組み、講師とよい関係が築かれた。
- 3 講師は一人ひとりを見て、それぞれに応じた声かけをしてくれて有り難かった。
- 4 生徒の普段見せない表情や、新たな一面を発見できる。コミュニケーション能力の向上に役立つ。
- 5 長谷中さんの熱心な取組はたいへんすばらしい。生徒も楽しそうに動き、成長していると感じる。
- 6 コミュニケーション能力の向上が求められる中、本校の取組は先進的で、目に見える成果はわかりにくいが高確率に出ている。
- 7 他校で取り組んでないことを考えると本校の独自性、特色として意義がある。
- 8 生徒が楽しく互いに協力しあって、一つの時間を共有している。他校にはない取組。
- 9 生徒相互の思いやりを高め、自己表現する力を育てる時間になっている。



## 9 (1) 中高連携授業記録<数学科>

教 務 部

実 施 日 時	平成25年3月4日(月) 9:35~10:25 平成25年3月5日(火) 13:15~14:05
授 業 者	照本 和生・横瀬 憲一
場 所	千種中学校・3-A・B各HR教室
対 象	中学3年生
教 科 ・ 内 容	数学科 平方根・因数分解
内 容 ・ 感 想	<p>高校の授業でも入学後すぐに中学校の発展分野として現れる単元が平方根と因数分解である。高校に入学して最初からつまづくことがないように、しっかり授業に取り組めるようにという思いを込めてこの単元を選んだ。まず、平方根については、平方根の意味をしっかりと押さえられている生徒は少なく、何回も説明することによって定着していったように思える。高校では累乗根も学習するので、平方根の考え方をしっかりと身につける事は大切である。素因数分解の説明では、約数の概念も交えながら行い、高校数学Aの分野に触れさせた。分母の有理化については、中学校では既習だが、言葉自体は出てこないで紹介し、分母が二項である有理化についても触れた。計算問題が中心の分野であるため、各生徒で進度に違いはあったが、全員一通りの演習を終えることができた。高校への良い架け橋となってくれればと願う。</p> <p>因数分解については、まず基本となる中学校数学における因数分解を黒板で説明し、各自演習させる形式をとった。全体授業だけでは理解できない生徒もいるため、教師の机間巡視によって、小さなミスを見逃さず指導した。</p>
	

## (2) 小高連携授業記録<理 科>

教 務 部

実 施 日 時	平成24年10月24日(木) 11:20~12:05
授 業 者	角野 陽介
場 所	宍粟市立千種小学校 理科実験室
対 象	千種小学校6年生/千種高等学校3年生チャレンジコース
教 科 ・ 内 容	理科実験/物質を-196℃にするとどのようなのかを確かめる。
児童・生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、バナナを-196℃で凍らせるとくぎが打てることが分かったし、ゴムボールを凍らせて、上からボールを落とすと割れたのですごかったです。花を凍らせて、花を手で握るとバリバリと割れて、とても面白かったです。(千種小6年生)</li> <li>・液体窒素と聞いて、どんなものだろうと思って見ると、想像していたものとは全く違っていて不思議でした。私が特にびっくりしたのは、二酸化炭素を風船に入れて、液体窒素の中に入れて出すと、風船の中にドライアイスができていたことです。何で?何で?と思いました。今日の実験はとても楽しかったです。 (千種小6年生)</li> <li>・花をドライアイスの中に入れると、花がバラバラになっていてビックリしました。高校生にやり方を教わったので、分からなかったことも分かるようになってよかったです。高校生は自分のことより私達のやり方を教えてくださったので、私も自分のことよりも人のことを考えていきたいです。(千種小6年生)</li> <li>・液体窒素でいろいろな実験をして、とっても楽しかったです。風船を液体窒素に入れると、縮んで、出すと元に戻ったりしてとてもすごいと思いました。高校生とちょっとだけ仲良くなれてよかったし、うれしかったです。(千種小6年生)</li> <li>・液体窒素の中に2種類のプラスチックボールと軟式のテニスボールを入れたが、テニスボールの方が割れてビックリしました。小学生はみんな真面目で、協力して取り組めた。また、探究心が旺盛ですばらしかった。(千種高校3年生)</li> </ul>
理科実験の様子	

### (3) 中高連携授業記録<保健体育科>

教 務 部

実 施 日 時	平成24年10月16日(火)～11月20日(火)計7日14時間
授 業 者	福永順二郎・上山麻美
場 所	千種中学校 体育館
対 象	千種中学校1～3年
教 科 ・ 内 容	体育科 武道(剣道)
感 想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千種中の生徒は、先生の指導がよいので授業が非常にやりやすい。ただ、人生の中でも一番元気な時期、もう少し活気があっても良いのではないか。</li> <li>・運動もどんどん二極化が進んでいる。とくに気になるのは肥満の生徒や体育嫌いの生徒が増えつつあるように思う。体育嫌いの生徒をつくらないように心がけたい。</li> </ul>
児童・生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての剣道ということで不安もありました。でも、高校の先生方に、竹刀の振り方や防具の付け方、面・小手・胴の打ち方をていねいに正しく教えていただいたので少しずつですができるようになっていきました。まだ、来年も再来年もできるので、しっかりとがんばってやっていきたいです。(1年生)</li> <li>・剣道をしたことがなかったので、すごく楽しみでした。でも竹刀は重くて振りかぶるのにも力がいりました。高校の先生方の指導のおかげでだいぶんうまく振ることができるようになりました。実戦では、上手く技を入れることができませんでしたが、練習の時よりも楽しくてやりがいがありました。来年は、試合をすると聞きました。少し怖いと思う部分もありますが、それ以上に楽しみです。(2年生)</li> <li>・試合風景を見たことはありましたが、防具を着けることですらひと苦労で、すべてが難しいことづくしでした。でも、高校の先生に優しく教えていただいて、剣道が「難しい競技」から「楽しい競技」へ変わり、教えてもらうことに感謝の気持ちが芽生えました。大きな声を出すことはなかなかできなかつたけれど、お手本を見せてくれた友だちや先生方をみて、一発目から声を出していく方が、かっこよく見えることが分かりました。(3年生)</li> </ul>
	

# 10 中高連携補習授業の記録<国語・数学・英語>

教務部

実施日時	平成24年8月27日(月)～29日(水) 13:10～16:00	
授業者	久保田美賀子／照本和生／河島健	
場所	1年1組HR教室(本校)	
授業内容	国語	<p>【高校入試問題(論説文・小説・古文・漢文)】</p> <p>兵庫県だけでなく、各都道府県の実際の高校入試の過去問題演習に取り組んだ。論説文や小説では問題文をじっくりと読み、何が書かれているかを理解し、問題解決の糸口を見つけ出す演習をした。小説では物語の場面設定の把握や、主人公の心情などについて考えた。古文・漢文では基礎的な事項、現代仮名遣いでの読みや、書き下し文に挑戦した。高校入試まではまだ日数があったが、参加生徒全員が、真剣に問題に取り組んでいた。高校入試に向けて、自分の苦手分野を知り、どのように学習していけばよいかを知るよい機会になった。</p>
	数学	<p>【高校入試問題(計算問題・連立方程式)】</p> <p>数学の基礎である計算問題を中心に各都道府県の高校入試問題の演習に取り組んだ。数学が得意な生徒にとっても、正確さをアップさせ、計算力を向上させる良い機会となった。連立方程式の分野では、いかに上手く文章から状況をイメージできるかにこだわった。数式化するためには、図を書くことは重要である。図を書くことによって、スマートに立式できるようになったのではないかなと思う。生徒の感想にも「難しい文章題が、分かりやすい図になったことで、イメージしやすかったし、式の立て方がよく分かった。」とあった。</p>
	英語	<p>【高校入試問題(読解問題・文法問題)】</p> <p>各都道府県の実際の高校入試問題演習を実施した。高校入試の実際を想定して、各分野の頻出問題をピックアップし、時間を区切って問題演習を行い、必要に応じて解説をした。高校入試本番に向けてどのように学習していけばよいかなど、それぞれの自覚につながったのではないかなと思う。やや難解な問題にもチャレンジしたが、参加生徒は意欲的に取り組んでいた。</p>
	 	

# 11 (1) アクティブ授業 (内) の記録

アクティブ (内) 担当 藤本 聡子

			○印 特別非常事態あり									
月	2年 (内) 大塚 5・8時間目			2年 (内) 大塚 3・4時間目			1年 (内) 木塚 3・4時間目					
	日	講師	内容	備考	日	講師	内容	備考	日	講師	内容	備考
4	17	藤本 聡子	学校飾の花瓶の手入れ		16	藤本 聡子	オガマキ・タン/フンなど		12	藤本 聡子	オガマキ・タン/フンなど	
	24	○	動くおもちゃⅠ		17	藤本 聡子	学校飾の手入れ		19	○	大塚 (木塚)	飾物のバズル
5	1	○	動くおもちゃⅡ (水色)		24	○	動くおもちゃⅠ		26	○	大塚	大塚
	8	○	動くおもちゃⅢ (水色)		1	○	さつまいも (紅玉の調理)		10	○	大塚	大塚
	22	○	三浦美奈 (水色)		8	○	西河内方面 (花・水の調剤)		24	○	大塚	大塚
	29	○	藤本 聡子	オガマキ・タン/フンなど	22	○	大塚	さつまいも (ワイルド・高糖)		31		大塚
6	12	○	木工	動くおもちゃⅠ	5	藤本 聡子	玉環 (取組)		7	○	大塚	大塚
	15	○	木工	木工・陶芸・写真の展示、野菜 (玉環など)・茶の煎茶実習	12	○	木工	からくりおもちゃⅠ	14	○	大塚	大塚
	26	○	大塚	加筆実習	26	○	大塚	さつまいも (手入れ)	16	○	大塚	文化祭予行
7	19	○	大塚		17	○	大塚	じゅぎらいも踊り	16	○	大塚	文化祭本番
	18	○	大塚	中高連携芸術教育「岡谷祭壇学習」								
9	4	○	大塚	オガマキ・タン/フンなど	31	○	大塚	オガマキ・タン/フンなど				
	11	○	大塚	モビール	4	○	大塚	オガマキ・タン/フンなど				
	18	○	木工	モビール	11	○	大塚	キーホルダー (加工)				
10	9	○	大塚	動くおもちゃⅠ (水色)	18	○	木工	キーホルダー (100個完成)				
	21	○	大塚	動くおもちゃⅡ (水色)	27	○	大塚	交通安全運動の告知 (キーホルダー配布)				
	25	○	大塚	動くおもちゃⅢ (水色)	2	○	大塚	河内方面「秋の風景」				
	30	○	大塚	動くおもちゃⅣ (水色)	9	○	大塚	さつまいも (取組)				
11	6	○	大塚	動くおもちゃⅤ (水色)	21	○	大塚	動くおもちゃⅠ (水色)				
	13	○	大塚	動くおもちゃⅥ (水色)	25	○	大塚	動くおもちゃⅡ (水色)				
	20	○	大塚	動くおもちゃⅦ (水色)	30	○	大塚	動くおもちゃⅢ (水色)				
	27	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)	6	○	大塚	動くおもちゃⅣ (水色)				
	27	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)	13	○	大塚	動くおもちゃⅤ (水色)				
12	4	○	木工	動くおもちゃⅧ (水色)	18	○	大塚	動くおもちゃⅥ (水色)				
	18	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)	27	○	大塚	動くおもちゃⅦ (水色)				
	15	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)	27	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)				
1	22	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)	4	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)				
	29	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)	15	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)				
	29	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)	22	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)				
2	6	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)	28	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)				
	12	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)								
	19	○	大塚	動くおもちゃⅧ (水色)								



## (2) アクティブ授業(外)の記録

アクティブ(外)担当 福永順二郎

### 1 ゴルフコース実習

本校ではマナーと自分を律する気持ちを育てるため、また集中力を高めるために、公立学校では珍しいがゴルフを授業に取り入れている。「千草カントリークラブ」のご協力と講師として村上登茂七さんのご指導のもと週2時間の基本練習をこなし、11月22日(木)にハーフ(9ホール)のコース実習を行いました。2、3年生の16名を4班に分けそれぞれリーダーのもとコースを回りました。半年間の総括と練習の成果を実践し、スコアカードをつけながらラウンドしました。

実習も慣れてきたためラウンドの進行が早く、最後の班が終わるまでに2時間半で回ることが出来ました。ティーグラウンドやグリーン上でのマナーを守り、スコアも60(9ホールで)を切る生徒もあり、コンペも盛り上がりました。

今年度の3年生はゴルフの技術の向上も早く、2学年次のグアムでの修学旅行でハーフ実習を行い、海外でのゴルフということで素晴らしい思い出が出来ました。



### 2 スキー実習

体で物事を覚えることの大切さを理解させるために地元の特性を生かし、数年前からスキー実習を取り入れています。最初はボーゲンもままならぬ生徒達が時間を追う毎に上達していきます。1月に入って今年は雪も多くベストのコンディションで実習ができました。講師としてインストラクターの奥田慎一さんの指導のもと、生徒は技術の向上とスキー検定テストを目指して一生懸命に滑り込みました。

2月21日(木)のスキー検定では1級から4級まで全員が合格する事が出来ました。



## 1 2 平成24年度生徒指導の概要

生徒指導部長 福永順二郎

平成22年度から千種中学校と連携型中高一貫教育校となり、中学校や地域との密なる連携を図りながら、学校の存続をかけて生徒指導に取り組んでいる。山村のへき地校であり、さらに少子化の影響を受け、ここ数年定員を割る状況が続いていたが、最近では地元中学校の生徒だけでなく、安心・安全な高校生活を送ることが出来るということで注目され、近隣の市や町から低学力、不登校生徒、発達障害、いじめられた生徒、問題行動等様々な問題をかかえた生徒が癒しを求めて入学してくるという状況を生み出している。

本校の課題は、中学校時代にいろんな問題を抱えている生徒達に自信をつけさせて高校生らしい生活を送らせてやることであり、それによって学校の安定化を図ることである。そのための方針として、生徒指導の強化を図り、厳しさの中にも温もりがあり「心に響く生徒指導」をモットーに、生徒との信頼関係を築くことから始め、生徒一人一人との関わりを深めることで心の充実を図り、生徒に自信をもたせるために体験活動を多く取り入れている。ここ2～3年問題行動も激減し、西播磨地域では特別指導件数が最も少ない学校となった。地域にも認められ、県下にも誇れる学校づくりができるようになった。

連携型中高一貫教育校のモデル校として地域に認められ、県下に誇れる学校づくりを目指している。そのために以下のことを重点策として取り組んでいる。

- 1 地域貢献活動（積極的なボランティア活動）
  - ・志引峠の膨大な不法投棄現場のゴミ回収と大山桜の植樹。  
（学校から6キロ離れた岡山県との県境、歩いて現場まで赴き作業にあたる。今では中学校と町をあげて取り組んでいる）
  - ・ちくさ高原での広葉樹の植樹、全校生徒と町の自然保護団体（栃の木会）の会員と栃の木の植樹。 ・独居老人宅配食事サービス。
  - ・特別支援学校との交流会（千種高原でスキー実習の補助）
- 2 体験学習を多く取り入れ、最後までやり抜くことにより達成感を味わわせ自信をつけさせている。
  - ・1年生 日本海での水泳実習と大山登山。
  - ・アクティブウィーク  
（ちくさ高原でのスキー実習と就業体験、最後にスキー検定を実施している）
- 3 問題行動早期発見・未然防止策 <イエローカードの発行>  
心の乱れが服装に出ることから、早めにチェック指導をして、服装違反者の内面的理解を深め、問題行動を未然に防いでいる。（早期発見・早期治療）
- 4 クラブ活動の強化  
生徒数102名という少人数の学校ではあるが、団体クラブを成立させ県でも認められるクラブ活動づくりを進め、クラブ活動を通じて人間力を育てている。
- 5 躰教育の徹底（服装・挨拶・マナー）  
「躰」はすべての教育活動の根幹である。本校においては、制服の着こなしについての指導は勿論のこと、生徒会を中心に1年間を通じて「あいさつ運動」を展開して、「元気なあいさつ」・「明るい笑顔」のある学校生活を心がけ、地域に於いても日々実践することによって千種町内外の皆様から非常に高い評価を得ている。

# 1 3 平成24年度 高校生心のサポートシステム実践研究

## 「中高連携を核とした組織的な生徒指導及びコミュニケーション能力の育成」

高校生心のサポートシステム推進委員会

### 1 はじめに

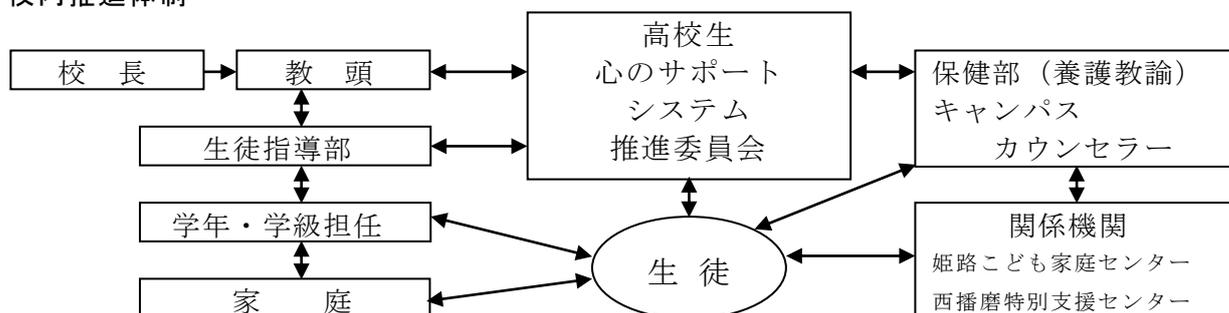
本校には、中学校時代に長期にわたる不登校を経験した生徒及び特別な支援（発達障害・学習障害・多動）を必要とする生徒が2割は入学してくる。校内に不登校生徒及び特別支援教育に関する委員会を設置し、生徒の実態把握と校内支援体制づくりを行い、日々の学習支援も含め個々の生徒に応じたきめ細やかな指導を行ってきた。その結果、中学時代に不登校を経験した生徒のほとんどが通常の生活に戻り、有意義な高校生活を送っている。その成果に基づいて、今年度は以下の方策により研究に取り組んだ。

### 2 具体的実践方策

平成22年度から「連携型中高一貫教育校」として新たな歩みを始めた本校は、千種中学校からの進学者が増え、更には千種中学校以外からの進学者も増加傾向にある中で、両者が仲睦まじく同じ教室で学び有意義な高校生活を送れるよう、特色ある教育課程と少人数教育を実現するとともに様々な体験活動を実施している。以下は研究の軸である。

- (1) 「連携型中高一貫教育校」の進化発展を図る為、生徒指導・心のサポートの充実を更に目指す。
- (2) 「アクティブ」「ベーシック」「チャレンジ」という3つのコースに分けてほとんどの授業を実施し、個々の目的や到達度に応じた少人数授業を展開する。
- (3) 小中学校課程の基礎的な学習内容の学び直しを含め、生徒個々の学力レベルに応じた「確かな学力」を身につけさせる。
- (4) 家庭や関係機関と連携して、高校生活を続けることができるよう支援する。
- (5) 「特別支援教員」を配置し、TTを実施して特別な支援を必要とする生徒の問題解決に資するとともに、家庭学習の充実を含めて個に応じた指導を充実させる。
- (6) ボランティア活動や体験活動を多く取り入れ、達成感や成就感を持たせることにより自信をつけ、自立する力を養う。
- (7) 「総合的な学習の時間」の一環として、即興劇の手法を応用した「インプロ学習」を採用し、生徒個々の自己表現力を伸ばすとともに、様々な集団活動や演技を通じて社会性や他者を思いやる心の育成を図る。（3年前から実施）

### 3 校内推進体制



### 4 本年度の取組状況（4～3月）

- (1) 中高の情報交換及び支援を必要とする生徒の家庭訪問・支援体制づくり（4月）
- (2) 中高一貫6年間にわたる継続したキャンパスカウンセリング（通年）
- (3) 元気な千種高校生を育む「あいさつ運動」（通年）
- (4) 自然豊かな千種高校に彩りを添える「校内花いっぱい運動」（通年）
- (5) 中高連携清掃ボランティア活動・志引峠の不法投棄廃棄物回収作業（6月）
- (6) ちくさ高原、ラベンダー・シバザクラ等の花植えボランティア（6月・7月）

- (7) 地元千種町の山を愛する中高連携森林教育（7月間伐体験、2月木工体験）
- (8) 第1学年宿泊体験学習・皆生海岸での水泳実習及び大山登山（7月）
- (9) 家島高校との「山と海の学校間交流」（8月家島、1月千種）
- (10) 学び直し・基礎学力充実補習（7月・8月、各学期の考査前及び長期休暇中）
- (11) 小中学生対象スポーツ活動及び理科実験の補助体験（8月・10月・11月）
- (12) 「総合的な学習の時間」での「インプロ自己発見学習」（全学年通年計8回）
- (13) 地域の小学生に対する茶道体験及びホテルの生態学習指導ボランティア（8月）
- (14) 千種川水質保全・水生生物調査ボランティア及び環境学習体験（9月）
- (15) 町内特別養護老人ホーム等における花植えボランティア活動（9・11月）
- (16) 独居老人宅への配食ボランティア活動（4月から通年、月2回）
- (17) 千種町「保幼小中高合同 ふれあい文化祭」を実施（11月）
- (18) 町内特別養護老人ホーム等で千種太鼓演奏コンサートを開催（11月）
- (19) 心のサポート講演会「寄り添うこころ」（加古川妙正寺住職・鹿多証道氏、11月）
- (20) 中高連携教職員研修会（中高共通のキャンパスカウンセラー・田邊裕樹氏による講話及び事例研究：「カウンセリング・マインド 不登校を考える」、12月）
- (21) 特別支援教育職員研修会（西播磨特別支援学校教諭・長谷川尚生氏による講話：「発達障害に対する理解と支援の在り方」、1月）
- (22) 赤穂特別支援学校生及び千種小学校受け入れ・スキー体験補助活動（2月）
- (23) 基礎学力充実・学び直し学習（12月・3月各学期考査前及び長期休業中）

## 5 成果と課題

### (1) 成果

#### ア 地域と連携した生徒指導

学校の指導だけではなく、「地域の子は地域で育てる」という地域の教育力を生かし、「アクティブ」（学校設定科目）の授業では地域在住の特別非常勤講師からの技術指導はもとより、マナー指導や人間力育成の上で成果を上げてきた。

#### イ ボランティア活動を重視した生徒指導

千種中高生混成班による環境美化活動を始め、冬季の赤穂特別支援学校や千種小学校のスキー活動受入を通じて、地域を愛する心や自己の存在感・活動の達成感を体得し、本来様々な問題を抱えて「支援される」ことの多い生徒達が他者を「支援する」という経験を積むことで自信を持ち、高校生活を有意義なものにしていこうとする姿勢を身につけ、自身の不登校傾向を克服することができた。

#### ウ 「インプロ自己発見学習」によるコミュニケーション能力の育成

即興劇の手法を用いた「インプロ」と呼ばれる活動を「総合的な学習の時間」の柱に据えて3年になる。全学年全ての生徒に履修させることで、本校の生徒は着実に自己表現力を伸ばすとともに、他者への思いやりや他者との関わり方についての技法を身につけてきた。他校でも是非とも試していただきたい活動の一つである。

### (2) 課題

ア 上述の諸活動や取組によって、中学時代に不登校を経験した生徒のほとんどが本校入学後回復して通常の高校生活を送ることができていることは大きな成果であるが、その反面、解決がかなわずに退学した生徒が複数名出ているのも事実である。

イ 生徒指導上の問題は年間2・3件に過ぎず、非常に落ち着いた状態が続いているのであるが、山奥とはいえネット環境は都会に匹敵するようになってきており、目に見えない部分の問題が潜伏している可能性もあり、今後注視していかねばならない。

## 6 来年度への展望（今年度実施の各取組みに加えて実施したいこと）

- (1) 生徒全員に対する体験キャンパスカウンセリングの実施（早期に短時間で）
- (2) 生徒全員の家庭訪問（早い段階で実施し、家庭及びネット利用状況等を把握する）
- (3) アルバイト先への訪問（学年・生徒指導部担当教員による）
- (4) 生活体験発表会・学習体験発表会・課題研究発表会等の実施

## 1 4 山と海の学校間交流（家島高校との交流記録）

生徒会担当 照本 和生・角野 陽介

山の学校「千種高校」と、海の学校「家島高校」の交流が今年も行われました。約10年前から続いている両校の友行事です。夏は千種高校の生徒会12名が真っ青な家島の海へ。冬は家島高校の1年生と生徒会が白銀のちくさ高原スキー場にやって来ました。

### 1 夏の交流【平成24年8月1日（水）】

B & G家島海洋センターにて交流会が行われました。朝早くに千種高校をバスで出発しまずは姫路港に行き、そこからは高速船で家島へ。家島に着くなり、家島高校生徒会がパネルを持って、私たちを歓迎してくれました。初めての地に千種の生徒は緊張と好奇心で初々しい表情をしていました。交流では、自校の学校紹介から始まり、互いの学校の良い点や見習いたい点などを言い合い、充実したものとなりました。午後からは、カヌー体験をしました。一人乗りのカヌーはなかなかバランスを取ることも難しく、中には転覆した生徒もいました。家島の素晴らしい環境の中での貴重な経験を通じて、一回り成長したことと思います。



### 2 冬の交流【平成25年1月29日（火）】

ちくさ高原スキー場にてスキーを通じて交流を行いました。午前には開会式後、各グループで自己紹介をして、千種高校生が各レベルの技術指導を行いました。お互い徐々に仲良くなり、積極的に会話をできるようになりました。家島高校の生徒には初めてスキーをする生徒がおり、教えることの難しさを感じました。午後からは自由にスキーを楽しんでもらいました。スキーだけでなく雪遊びをして楽しく盛り上がっている生徒もいました。千種高校生は安全確認と時折技術指導を行いました。全員が怪我なく楽しく実習を終えることができ、忘れられない思い出になりました。



# 15 第38回千種高校文化祭

生徒会担当：松井利澄・照本和生・角野陽介・横瀬憲一

本年度スローガン：「こころはひとつに」

## 1 日程：平成24年6月16日（土）

9:20～ 9:30 集合・点呼	11:40～13:10 昼休み（模擬店・展示）
9:30～ 9:40 開会式・セレモニー（生徒会）	13:20～13:50 和太鼓「鯨」
9:50～ 9:55 1年アクティブ太鼓	14:10～14:30 2-1クラスステージ
10:00～10:20 選択音楽発表	14:40～15:00 3-1クラスステージ
10:20～10:30 有志発表	15:10～15:15 クロージング
10:40～11:10 軽音楽ステージ	15:15～15:25 閉会式・表彰
11:20～11:40 1-1クラスステージ	15:30～ 片付け

## 2 内容：

- ・ステージ 生徒会「オープニングダンス」 1年アクティブ「太鼓演奏」  
選択音楽「青いベンチ(合唱・1年生)・Rising Sun(ダンス・2年生)」  
有志「バンド演奏(3年生)・ダンス(3年生)・漫才(1年生)」  
軽音楽「バンド演奏」 民謡集団「鯨」「太鼓演奏」  
1-1クラスステージ「インスパイアド・ハイスクール」  
2-1クラスステージ「アンパンマン～ジャムおじさんの奪還～」  
3-1クラスステージ「ロード」
- ・模擬店 PTA（カレー・バザー）、商工会連合会（焼き鳥・アイス）  
野球部保護者会（炊き込みごはん・ドーナツ）、シルバー（駄菓子販売）  
生徒会（フランクフルト）、アクティブ（野菜・花の販売）  
ボランティア部（クッキー販売）、パソコン部（わたがし）、茶華道部（茶席）
- ・展示 アクティブ（写真・陶芸・木工）・選択美術（デッサン・絵巻物）  
茶華道部（生け花）

昨年度は校舎改修工事のため、小規模な文化祭となってしまいましたが、今年度は校舎も改修され、例年通りの文化祭を開催できました。今年度は、2・3年生のクラスステージを午後に移し、午後に参加する千種中学校の生徒達に見てもらいました。これにより、全学年、気合いの入った舞台演出を展開し、全体を盛り上げることとなりました。また、午後最初のステージでは外部団体である民謡集団「鯨」様の和太鼓演奏があり、大いにステージを盛り上げていただきました。

最後になりましたが、PTAの皆様には様々な模擬店を出していただき、お陰様で文化祭は大盛況の内に終わることができました。本当にありがとうございました。



# 16 平成24年度第38回千種高校体育大会

生徒会担当 松井 利澄

本年度スローガン：「<sup>えいしきつそう</sup>英姿颯爽～一瞬のために～」

1 期 日： 平成24年9月26日（水）

2 内 容（プログラム）：

午前の部	午後の部（中高合同）
1 入場行進	P T A会長挨拶
2 開会式	16 クラブ行進
3 ラジオ体操	17 中学校団体演技男子（組体操）
4 男女100m予選	18 中学校団体演技女子（ダンス）
5 男女200m予選	19 高校団体演技女子（ソーラン）
6 100人百足競争	20 高校団体演技男子（空手演舞）
7 障害物競走	21 中高選抜女子4×100mリレー
8 男女100m決勝	22 中高選抜男子4×200mリレー
9 男女200m決勝	23 フォークダンス
10 PTA競技	24 閉会式
11 綱引き	
12 大縄跳び	
13 高校女子4×100mリレー	
14 高校男子4×200mリレー	
15 仮装大賞	



第38回体育大会は、少人数ながら、体育科教員、生徒会が中心となって、一人一人が一生懸命に取り組み、とても力のある立派な体育大会となりました。地域の方々にも多数ご観覧いただき、大変にございました。また、準備の段階からクラス単位で放課後遅くまで残り、百足競争やリレーの特訓、クラス旗や担任の先生への仮装などを通してクラスの団結が一層深まったように感じます。



また、午後からは第4回の中高連携体育大会となり、中学生と高校生が交流を深めました。お互いの演技を披露したり、中学VS高校でリレーをしたりしました。最後は、恒例のフォークダンスでまとまりのある姿を見せてくれました。区切りの5回目となる来年度は更に進化したものになればと考えます。



## 17 第4回千種中高連携マラソン大会

体 育 科

1 目的： 持久走の持つ特性を理解し、健康的な体力作りを目指して、仲間と支えあい完走する体験をするとともに、たくましい精神力を養い達成感を味わう。

目 標： 全員完走を目指す。

2 期 日： 平成25年2月19日（火）

3 大会日程：

10：10 開会式  
10：20 ウォーミングアップ  
10：45 スタート地点に集合  
10：50 スタート  
11：50 ゴール  
12：00 閉会式



4 走行距離： 中学 男子5キロ・女子3キロ 高校 男子8キロ・女子5キロ

5 参加者： 中学1・2年 男子32名（1年22名・2年10名）  
女子22名（1年10名・2年12名）  
高校1・2年 男子36名（1年21名・2年15名）  
女子27名（1年13名・2年14名）  
男子68名 女子49名 合計117人

6 大会記録： 高校生男子8キロ 1位 竹内 聡 （2年） 31分15秒  
2位 秋久 侑太 （1年） 31分40秒  
3位 荒尾 信輔 （1年） 32分5秒  
高校生女子5キロ 1位 平瀬 加菜絵（1年） 24分9秒  
2位 西垣 菜月 （2年） 24分53秒  
3位 高下 実由貴（1年） 25分12秒



3学期からマラソン大会に向けて中学生も高校生も持久走に取り組みます。一人一人が自己記録更新や完走を目指して一所懸命に走りました。沿道からは、小学生や地域の方々が熱い声援を送って下さり、生徒達の大きな励みとなりました。走り終わった生徒達も最終走者がゴールするまで待機し、全員で迎えてくれました。一人一人の頑張りや仲間との切磋琢磨があり、生徒達は達成感を十分に味わうことが出来ました。また、地域を元気づける大会となりました。

## 18 生徒会主催「百人一首大会」

生徒会担当 照本 和生

3月7日（木）3・4限に毎年恒例となっている百人一首大会が本校柔道場で盛大に行われました。今年は持ち札25枚の1対1の対戦である競技カルタが採用されました。詠み手はいつも百人一首大会でお世話になっている地元千種町千草の大北尚三先生と本校の原田教頭をお願いいたしました。下の句が詠まれると皆真剣に詠み手の方に耳を傾け、前傾姿勢を取りながら一早く自分の持ち札が無くなるように一生懸命になっていました。悔しがらる声や歓びの音が所々で湧き起こり、白熱した戦いとなりました。1回戦で勝った32人が勝った者同士で2回戦、1回戦で負けた者同士で2回戦を行い、約2時間の戦いは幕を閉じました。他学年が一緒になって日本特有の伝統文化に触れるこの機会は今後とも大事にしていきたい行事です。来年はもっと白熱した戦いになるように、カルタの句をしっかり覚えて頑張ってもらいたいと思っています。

### 成績

勝者チーム 1位 平瀬 加菜絵  
2位 井口 拓実  
3位 鎌田 湧地  
4位 秋久 明  
5位 井口 裕香  
6位 阿曾 凌佳 榮永 悠花

敗者チーム 1位 橋本 大聖  
2位 高下 実由貴  
3位 土平 章嫁



## 19 千種中高連携生徒会執行部ミーティング

生徒会担当 松井 利澄

- 1 日時：平成25年3月6日（水）16：00～17：00
- 2 場所：千種中学校 会議室
- 3 司会：高校副会長 記録：高校書記

(1) 高校生徒会長挨拶

(2) 自己紹介

(3) 意見交換

『今年度の取り組みと来年度への課題』



### 高校

文化祭・球技大会（男女ともバスケ）

妙見夏祭り準備

家島交流（夏は家島へ、冬は千種で）

宍粟観光体験リポーター（夏休み）…山崎・伊和の生徒会と合同で活動

消費者教育セミナー…神戸で発表

百人一首大会（2・3年）

生徒会新聞の発行（今年は4回に留まった）

※やることが多く、新たに何かをしようというのは厳しいが、毎年行っている行事の中で少し変化をつけたり、生徒主体の部分を増やしたりしたい。

### 中学

カルタ大会や3年生を送る会を企画し、成功した。

高校への要望：生徒会新聞を中学校にも配布してほしい。

### 中高合同

美化活動・・・町がきれいになって良かった

文化祭・・・高校生の劇が見られて良かった

体育大会・・・良かった

企業見学・・・貴重な経験ができて良かった

木工体験・・・もっと大人数でしたかった

部活動・・・クラブ単位でもっと合同練習を

※昨年度に続き「中高の生徒同士の関わりが少なかった」という意見が出た。

◎ 一昨年は3学期にカルタ大会を合同で行ったが昨年は計画倒れになってしまった。

◎ 来年は何か中高全員もしくは生徒会合同で出来るものはないか。

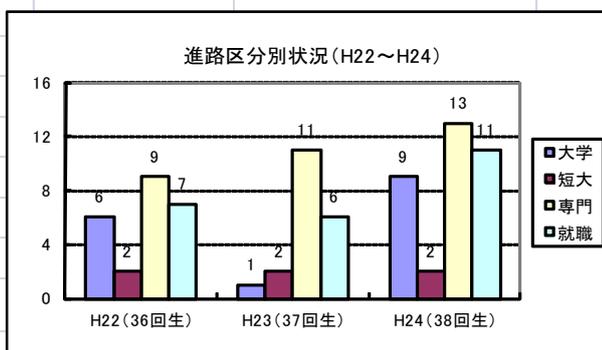
- ・中高生徒会で消費者教育の劇
- ・文化祭で中学生が合唱
- ・球技大会（中高混合チームで）：カローリング・ペタンク・グランドゴルフなど
- ・スノボ・スキー実習
- ・合同体育授業
- ・千種探訪（大馬鹿門・キャンプ場・グルメ）
- ・ブランド商品の開発（鹿肉・米・豆腐・玉子・ラドン水など）

## 20 第38回生進路状況報告

進路指導部長 藤本 聡子

### 1. 本年度の取り組み

35名の卒業生の内、大学進学者は9名（26%）、短大進学者は2名（6%）、専門学校進学者は13名（37%）、就職者は11名（31%）でした。例年に比べると、大学への進学者数が増えました。推薦入試や一般入試に向け、教科の補習や小論文、面接にしっかり取り組み、それぞれの結果を残すことができました。就職については、夏休みの早い時期から面接練習に取り組むなど、就職に対する意識も高く、多種多様な職種に就職が決定しました。



### 2. 進路状況

#### (1) 大 学

学 校 名	学 部/学 科	合格件数
日本福祉	社会福祉/社会福祉	1
藍野	医療保健/看護	1
大阪電気通信	工/電気電子工・工/情報工	1 ○1
岡山理科	工/情報工	1
金沢学院	スポーツ健康/スポーツ健康	1
関西国際	人間科学/人間心理	1
近畿	工/情報	1
四天王寺	教育/教育	1
宝塚医療	保健医療/柔道整復	1
(大学進学者数)		9

#### (3) 専門学校

(○は合格のみ)

学 校 名	学 科	合格件数
旭川荘厚生	看護	1
玉野総合医療	介護福祉	○1
順正高等看護福祉	看護	○1
大原簿記(神戸校)	公務員事務系/公安系	2
関西総合リハビリテーション	理学療法	1
神戸医療福祉(三田校)	救急救命士/理学療法	2
神戸パルエベル美容	美容	1
日本栄養	栄養士	3
日本工科	自動車工	1
姫路福祉保育	介護福祉	1
兵庫県立農業大学校	農業園芸	1
(専門学校進学者数)		13

#### (2) 短 大

学 校 名	学 科	合格件数
島根県立大学短期	保育	1
新見公立	幼児教育	1
(短大進学者数)		2

#### (4) 就 職

企 業 名	職 種	勤務地	合格件数
自衛隊	一般曹候補生	兵庫県	1
自衛隊	自衛官候補生	兵庫県	2 ○1
株式会社 ニチフレ千草	組立工	宍粟市千種町	1
株式会社 横山基礎工事	土木施工、建設機械の操作修理点検等	佐用郡佐用町	1
株式会社 みはら美容室	ヘアメイク・アシスタント	神戸市	1
有限会社 松井工業	機械器具設置作業員	姫路市	1
黒田左官工業株式会社	左官工見習	姫路市	1
特別養護老人ホーム やまさき白寿園	介護職	宍粟市山崎町	1
ハチ食品株式会社(アルバイト)	製造	宍粟市山崎町	1
未定			1
(就職者数)			11

### 3. 就職および進学動向について(兵庫県進路指導研究会より)

(1) 求人企業が増えたことから就職内定者は昨年度より多いが、卒業予定者が増えたことや景気の動向から就職希望者が増えたため、内定率は昨年度を下回る。また、大企業で求人のしぼりこみがあり、採用選考基準が高く、競争率が高くなっている。なお、依然として女子生徒の希望が多い事務職、販売職、検査職の求人が減少している。

(2) 厳選化が進んでおり、企業が求める人材でないと不合格とし、募集・選考を重ねる企業や、募集人数を充足せずに募集を終了する企業も見られる。また、SPIやDPIなどの適性検査をおこなう事業所が増加しており、学科試験の結果で不採用のケースが増加したりするなど、学力を重視する企業も見られる。

(3) 大学進学の学部別志望動向は理高文低の傾向であるが、教育や看護系統などの資格取得系学部の人気は安定している。

## 2 1 平成24年度実施模擬試験・進路検討会の記録

進路指導部長 藤本 聡子

1 学年			
	実施日	名称 (実施団体)	受験生徒数
①	7月 7日 (土)	総合学力テスト・7月(ベネッセ)	10人
②	11月 3日 (土)	総合学力テスト・11月(ベネッセ)	10人
③	1月 20日 (日)	総合学力テスト・1月(ベネッセ)	10人
2 学年			
	実施日	名称 (実施団体)	受験生徒数
④	7月 9日 (月)	総合学力テスト・7月(ベネッセ)	10人
⑤	11月 3日 (土)	総合学力テスト・11月(ベネッセ)	11人
⑥	1月 26日 (土)	総合学力記述模試・1月(ベネッセ)	10人
⑦	2月 16日 (土)	センター試験早期対策模試・2月(ベネッセ)	10人
3 学年			
	実施日	名称 (実施団体)	受験生徒数
⑧	5月 6日 (日)	総合学力記述模試・5月(ベネッセ)	8人
⑨	5月 6日 (日)	公務員模試 (大原)	5人
⑩	6月 9日 (土)	総合学力マーク模試・6月(ベネッセ)	8人
⑪	6月 9日 (土)	就職模試 (実務教育)	6人
⑫	6月 22日 (金)	公務員模試 (大原)	5人
⑬	7月 7日 (土)	総合学力記述模試・7月(ベネッセ)	8人
⑭	7月 7日 (土)	就職模試 (実務教育)	6人
⑮	7月 23日 (月)	公務員模試 (大原)	5人
⑯	8月 29日 (水)	小論文模試 (ベネッセ)	7人
⑰	9月 22日 (土)	第1回ベネッセ・駿台マーク模試(ベネッセ)	7人
⑱	10月 20日 (土)	第2回ベネッセ・駿台記述模試(ベネッセ)	6人
⑲	11月 3日 (土)	第3回ベネッセ・駿台マーク模試(ベネッセ)	6人

### 進路検討会 (センター試験後) について

- |        |   |
|--------|---|
| 1. 日時  | 平成25年1月25日 (金) 15:40~16:40  |
| 2. 場所  | 応接室   |
| 3. 参加者 | 教頭、進路部長、3学年団、5教科補習担当者 (国・数・社・理・英)   |
| 4. 内容  | ①センター試験自己採点集計結果と志望校について⇒ (進路より)<br>②FINE SYSTEM (Compass) の利用方法について⇒ (進路より)<br>③参考資料 (34回生・36回生・37回生) について⇒ (進路より)<br>④意見交換⇒ (学年より) |
| 5. 準備物 | パソコン (数台) ・プロジェクタ・CD等   |

## 2 2 平成 2 4 年度実施の健康教育

養護教諭 沼田 真穂

### 1 救命救急講習会

- ・日 時：平成 2 4 年 7 月 1 0 日（火） 8 : 3 5 ~ 1 1 : 2 5
- ・対 象：全校生徒
- ・講 師：宍粟市消防本部千種出張所 消防署員
- ・内 容：各学年 1 時間ずつ、A E D の使用を含めた心肺蘇生法の実技講習を行った。  
また、熱中症についての講義も受けた。



#### 1 年生の感想

中学のときもしたけど、少し内容が変わっていて、自分のこの手で 1 つの大切な命が助かるってことが、本当にすごいと深々と思いました。他にもいろんな話を聞かしていただいて、A E D を使う上で知らなかったことがいくつかあったので、勉強になってよかったです。そして、これから先、そういう場に立ち会って、知らない人だとしてもためらわず、しっかり助けたいと思います。たったの 1 秒がこんなにも大事なんだってことが勉強になりました。

#### 2 年生の感想

救命救急講習会は、今まで何回かは受けてきたけど、やっぱり忘れてしまっているし、自分がやる番になると頭が混乱してしまうので、冷静を保ちたいと思いました。途中の方法が変わっているところもあったけど、どんどんやりやすくなっているの、命が助かる人が増えるのではないかと思います。本当に自分がそんな場面に出くわした時、なかなか行動に移すことができないかもしれないという不安もあるけど、今日教えてもらったことを生かして、1 つでも多くの命が助かるように協力していきたいです。

#### 3 年生の感想

今までのやり方と違って、少し戸惑ったところもありました。今年初めて A E D を触って、全部自分でやったので、ちょっとだけ緊張したけど、1 回やっておくともしものときでも使える自信がわいてきました。時間がなかったけど、しっかり講習を受けられました。いざというときは、自分が率先して人命救助をしたいと思いました。夏の熱中症にも気をつけ、自分の命は自分で守り、困っている人には手助けしたいです。

## 2 職員研修会

### (1) 心肺蘇生法講習会

- ・日 時：平成24年7月3日（火）13：30～14：30
- ・講 師：本校学校医 藤多 和彦 先生
- ・内 容：AEDを用いた心肺蘇生法の講義、実技講習を受けた。  
職員全員がダミーを使って心肺蘇生法の流れを理解、確認した。



### (2) 中高合同教育相談研修「カウンセリングマインド 不登校を考える」

- ・日 時：平成24年12月21日（金）13：30～14：30
- ・講 師：中高キャンパスカウンセラー 田邊 裕樹 先生
- ・内 容：中高合同で教育相談の研修会を開き、不登校の特徴や対応について助言を受けた。



### (3) 特別支援教育研修「発達障害の理解と支援の在り方」

- ・日 時：平成25年1月30日（水）15：40～16：40
- ・講 師：県立西はりま特別支援学校 長谷川 尚生 先生
- ・内 容：発達障害をもつ生徒の特徴について、わかりやすく説明していただき、支援の方法について具体的な助言をいただいた。



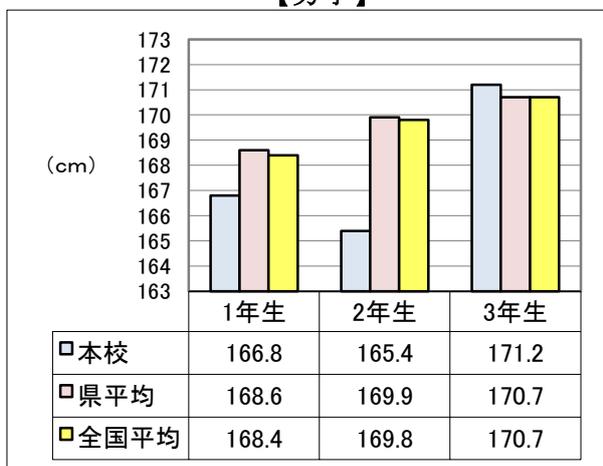
## 2 3 平成 2 4 年度身体測定の結果

保 健 部

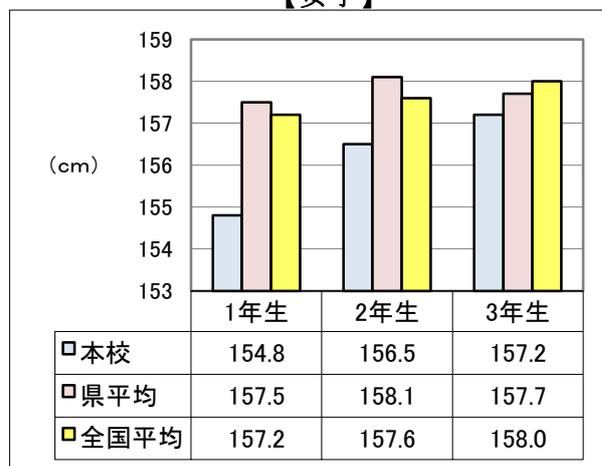
実施期日：平成 24 年 4 月 10 日（火）

### 1 身長

#### 【男子】

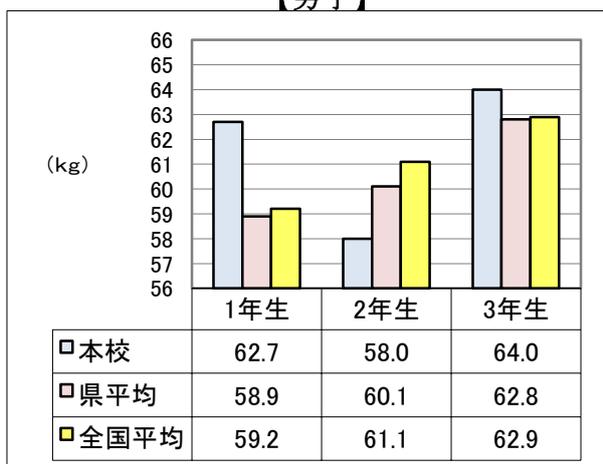


#### 【女子】

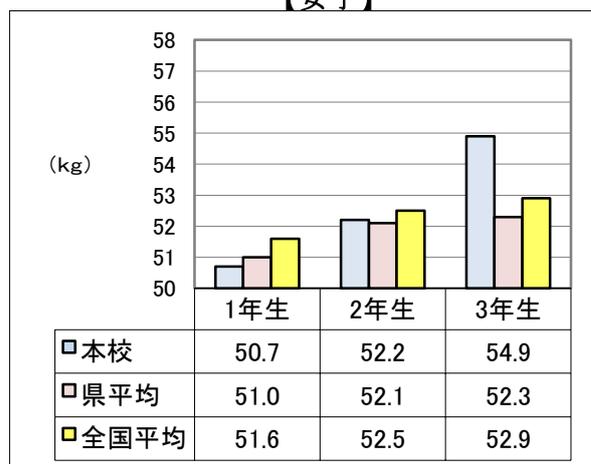


### 2 体重

#### 【男子】

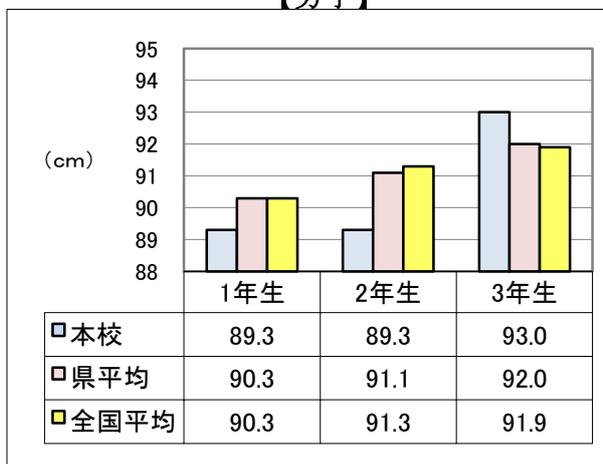


#### 【女子】

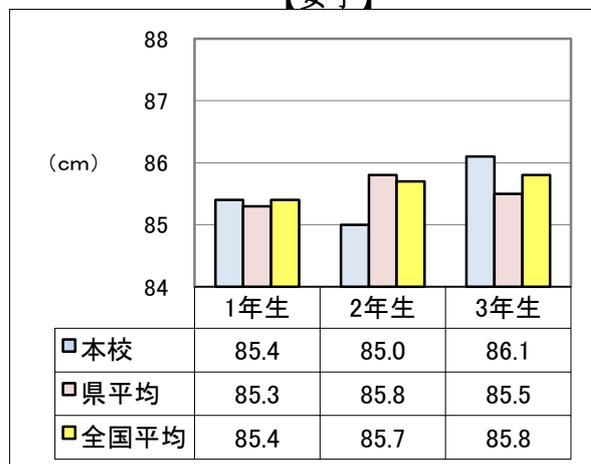


### 3 座高

#### 【男子】



#### 【女子】



## 2 4 平成 2 4 年度教育相談活動（キャンパスカウンセリングの記録）

保 健 部

### 1 構成委員

キャンパスカウンセラー 田邊 裕樹 先生〔臨床心理士〕

### 2 相談者の選別

- ・ 全校生徒に「キャンパスカウンセリングのお知らせ」を配布し、本人または、保護者より希望があった者
- ・ 日々の教育相談活動の中で必要と思われる者
- ・ 担任より要請のあった者

### 3 平成 2 4 年度実施状況

第 1 回	4 月 1 7 日（火）	生徒 1 名	保護者 1 名
第 2 回	5 月 2 9 日（火）	生徒 1 名	
第 3 回	6 月 1 2 日（火）	生徒 2 名	
第 4 回	7 月 1 7 日（火）	生徒 2 名	
第 5 回	9 月 1 1 日（火）	生徒 2 名	
第 6 回	1 0 月 2 3 日（火）	生徒 2 名	
第 7 回	1 1 月 1 3 日（火）	生徒 2 名	
第 8 回	1 1 月 2 7 日（火）	生徒 1 名	
第 9 回	1 2 月 4 日（火）	生徒 2 名	
第 1 0 回	1 2 月 1 1 日（火）	生徒 1 名	
第 1 1 回	1 月 2 2 日（火）	生徒 2 名	
第 1 2 回	1 月 2 9 日（火）	生徒 2 名	
第 1 3 回	2 月 5 日（火）	生徒 3 名	
第 1 4 回	2 月 2 6 日（火）	生徒 3 名	
第 1 5 回	3 月 5 日（火）	生徒 1 名	
第 1 6 回	3 月 1 2 日（火）	生徒 2 名	
	1 2 月 2 1 日（金）	〈中高合同職員研修会〉	
計		生徒 2 9 名	保護者 1 名 教員 0 名

### 4 相談内容について

友人関係、進路・学習、性格、異性・性、その他

### 5 教育相談の重要性について

平成 24 年度は、全国的にも、また全県的にもいじめや体罰、そして、それらに伴う自殺の問題が大きくクローズアップされ、各学校に於ける日常的な生徒の観察や教育相談活動の重要性が叫ばれた年であった。その為、年度途中の施策として全学校に於いてキャンパスカウンセリングの回数を増やすという通達が出され、本校でもキャンパスカウンセラー田邊先生の快諾を得て急遽対応し、教育相談の機会拡充を行った。

来年度に於いても、兵庫県の施策に基づいて「キャンパスカウンセリング」のさらなる充実を図り、カウンセリングで得られた情報については生徒を取り巻く状況に留意しながら、より機能的に対応できるように教育相談委員会の活動を活発なものにしていきたい。さらに、特に 1 年生について 4 月から 5 月にかけて全員にキャンパスカウンセリングを体験させるとともに、全学年に於いて家庭訪問を実施し、そこから得られた生徒情報等を集約しつつ、この制度を積極的に活用できるような環境整備を図っていきたく考えている。

## 25 平成24年度人権教育の記録

人権教育担当 照本 和生

### 1 推進委員会の活動内容等

#### (1) 活動内容

実施月	回数	内容
随時	12	①人権教育推進計画の立案 ②職員研修会の企画 ③研究会等への職員の派遣 ④宍粟市人権作文の選定 ⑤町内学校園との連携

#### (2) 教職員研修会

月	内容	資料名等
8	①人権LHRの計画・立案・実施について ②講演の計画・立案・実施について ③消費者教育の推進	①LHRの展開についての研修会 ②人権に関わる、著名な方の講演会 ③消費者教育に関わる学習・講演

### 2 各領域等における取組

#### (1) 特別活動

##### ア ホームルーム活動

学年	月	時数	内容	資料名等
1年	7・12・3	3	命の大切さ、命のつながりに向き合おう 「孤立」から「つながり」、そして「支え合い」へ 人権文化の創造に向けて	HUMAN RIGHTS 1～6
2年	7・12・3	3	多文化共生社会への虹の架け橋 インターネットの向こう側 多様な働き方と生き方が選択できる社会に向けて	HUMAN RIGHTS 7～12
3年	7・12	2	公正な採用選考に向けて 震災の教訓を次世代の子どもたちへ	HUMAN RIGHTS 13～18

##### イ 生徒会活動

実施月	内容
随時	挨拶運動・家島高校との学校間交流（夏・冬）・消費者教育セミナー研究発表（2月） 千種中学校生徒会執行部との交流（3月）など

##### ウ 学校行事

実施月	内容	講師名（所属等）
随時	中高連携環境美化活動（6月）・文化祭（6月） 体育大会（9月）・消費者教育講演会（10月） 人権教育講演会（心のサポート）（11月） 保幼小中高合同ふれあい文化祭（11月） 中高連携マラソン大会（2月）	篠原嘉一氏 （情報セキュリティサポーター） 鹿多証道氏 （加古川妙正寺住職）

#### (2) 総合的な学習の時間

実施月	内容
随時	ふれあい育児体験・インプロ学習・就業体験（2月）など

#### (3) その他（課外活動の状況等）

ボランティア部の町内独居老人への配食サービス・地域ボランティアへの参加 （①町内にある老人ホームでの太鼓演奏や音楽選択者による楽器演奏、ダンス披露など ②町内にある寺主催の 野外活動への参加・地域行事への積極的参加）
--

### 3 教育上特に配慮を要する生徒に対する取組

教員研修会を実施して生徒支援の具体的な方法を学ぶとともに、特別支援担当教員を配置して各授業における支援を継続的に行っている。
--

### 4 本年度の成果と課題

様々な体験活動を通じて、他者への関心や共感能力を高めることができた。また何か物事をやり遂げるにあたり、自ら考え、自ら行動することによって主体性を身につけると同時に達成感も味わうことができた。今後は、日常生活の中でも人権に関わる問題に気付き、考えられる環境作りを授業を通して作っていきたい。
--

## 26 第1学年「皆生・大山野外活動」

第 1 学 年

1 目 的： 大自然の中で集団行動を通じて、達成感、成就感を味あわせる。

2 日 時： 平成24年7月17日（水）～18日（木）

3 行 先： 皆生温泉海水浴場／国立公園大山

4 詳 細：

18日（水）

8:15 学校出発

12:30 皆生ライフセービングクラブの指導による水泳実習他

15:00 皆生海岸出発

17:30 宿舎「山香荘」着

夕食・入浴・学習

22:00 就寝

19日（木）

6:15 起床

8:00 大山寺より大山登山開始

11:30 山頂到着 昼食

14:30 大山寺着 バス乗車

17:45 学校着



1日目は、「皆生ライフセービングクラブ」の方々のご指導のもと、海での泳ぎ方や人命救助の方法などを学びました。希望者は遠泳にも挑戦しました。波が高く、テトラポットの内側を泳ぎました。700メートルは泳いだでしょうか。

そして2日目は、大山登山をしました。お互いに励まし合い、3名が体調の悪化により途中で引き返しましたが、ほとんどの生徒が見事登頂しました。今回は頂上付近の工事のため、3キロほど遠回りをしなければならない上、ガスがかかったり強風が吹き荒れたり過酷なものでした。困難を乗り越えて高校生としてひとまわり大きく成長することができた二日間でした。

## 27 第1学年「就業体験」(アクティブデイズの記録)

第1学年副担任 照本 和生

就業体験を通じて地元の産業を身近に感じさせるとともに、働くことの厳しさを知り、社会人としてのマナーを身につけさせることと、スキー技能の習得及び更なる向上を通じて、新たな事を学ぶ楽しさと目標に向かって努力する姿勢を養うため、昨年に引き続き、1学年を対象としたアクティブデイズ(スキー実習&就業体験)を実施しました。

日程は2月6日(水)と7日(木)の9:30~15:00までの2日間で、ちくさ高原スキー場において行われました。リフト乗り場、レンタルショップ(個人・団体)、レストラン食堂、宿泊施設で仕事をさせていただきました。慣れない仕事で笑顔がぎこちなかった生徒も仕事に慣れ始めると徐々に自然な表情に変わり、すぐに要領を得てきびきびと動けるようになりました。元気よくお客様に挨拶や応対をしていた光景は見ていても気持ちよかったです。特にレンタルショップ担当の生徒たちは、就業体験の時間が過ぎても、団体客への対応を自ら進んでしていたのが印象的でした。

就業体験を終え、生徒たちの疲れと同時に浮かぶ明るい表情に、充実感・達成感が溢れていました。終了後、職員の方々からは、「一生懸命に取り組んでいた。本当に助かりました」とお褒めの言葉もいただきました。この2日間を通して、生徒全員が実りある時間を過ごすことができたことと思います。



## 28 第39回生修学旅行

第2学年

1 日時：平成24年10月2日（火）～10月5日（金） 3泊4日

2 参加生徒：第2学年 男子15名、女子14名 計29名

3 引率職員：浅田校長（団長）、藤本（学年主任）、角野（学級担任）、沼田（養護）

### 4 行程

#### 1日目<<10月2日（火）>>

学校・各地 \_\_\_\_\_ 伊丹空港 <sup>ANA105</sup> 便 \_\_\_\_\_ 那覇空港 \_\_\_\_\_ ひめゆり平和祈念資料館  
 (千羽鶴奉納)  
 7:10(集合) 7:30 9:30/11:00 13:05/13:35 14:15 15:00  
 \_\_\_\_\_ シムクガマ \_\_\_\_\_ 金武町(ネイチャーみらい館)  
 (追壕体験) パーベキュー  
 16:00/17:30 18:10

#### 2日目<<10月3日（水）>>

ホテル ……体験学習…… 昼食 \_\_\_\_\_ ホテル \_\_\_\_\_ 大宜味村……入村式……各家庭  
 (本場のエイサー鑑賞とエイサー体験) 13:00 14:15 (民泊体験)

#### 3日目<<10月4日（木）>>

各家庭……退村式 \_\_\_\_\_ 美ら海水族館 \_\_\_\_\_ 名護(昼食) ホテル マリンスポーツ体験  
 (ホテル前ムルクビーチ)  
 9:00 10:00/11:45 12:15/13:15 14:00 (バナナボート&シュノーケリング)

#### 4日目<<10月5日（金）>>

ホテル \_\_\_\_\_ 首里城 \_\_\_\_\_ 国際通り 班別研 \_\_\_\_\_ 那覇空港 <sup>ANA106便</sup> 伊丹空港 \_\_\_\_\_ 各地・  
 修 8:10 9:00/9:45 10:00/12:30 12:40/14:05 16:00/16:30 18:30 学校

### 5. 内容：

#### 1日目

午後に那覇空港に到着し、まずバスでひめゆりの塔と平和祈念資料館に行きました。  
 ひめゆりの塔ではクラスで作った千羽鶴を奉納しました。



その後、「シムクガマ」に移動し、懐中電灯を持って、実際に中に入りました。ガイドさんから戦争中の話を聞き、沖縄の現状を知ることができました。全員が集中して聞き、強く印象が残りました。そして、「ネイチャーみらい館」に到着し、全員でパーベキューをして今日の活動を締めくくりました。

## 2日目

午前中はネイチャーみらい館でエイサー体験をしました。衣装を着て地元の人から教えていただき、何回も練習しました。見事に習得して、最後には男女で御披露目会をしました。とても楽しんで取り組むことができ、エイサーを教えてくださいました方々とも交流を深めました。



エイサー体験



藍染体験



農業体験（らっきょう植え）

午後からは民泊体験のため、大宜味村に移動しました。7班に別れて明日の朝まで各家庭でお世話になります。最初にお土産の素麺を渡し、それぞれの班でいろいろと工夫を凝らした体験をさせていただきました。藍染体験、農業体験（らっきょう植え）、農業体験（シークワサーの収穫）、料理（サターアングギー）、料理（島バナナケーキ）、林業（台風修復作業）、料理（シークワサージュース）の体験をしました。

## 3日目

午前中は美ら海水族館に行きました。大きな水槽の中にあるジンベイザメやイルカショーを見て楽しみました。午後からは浜比嘉島に移動し、沖縄の綺麗な海でシュノーケリングやバナナボートを満喫しました。



## 4日目

午前中は首里城に行きました。その後バスで移動し、国際通り班別研修を行いました。約1.6kmの通りの中に店がたくさんあり、それぞれが思い思いに気になった店でお土産を買いました。昼食も班別にとり、那覇空港に移動して14時05分の飛行機に乗り、18時50分に無事に帰校しました。



## 29 中高連携社会科企業見学（第2学年）

社会科担当 藤原 正憲

- 1 目的： 魅力あるひょうごの高校づくり推進事業「インスパイア・ハイスクール」の一環として、中学生と高校生が合同で企業見学をすることによって、将来の社会的・職業的自立に向けて必要な知見や態度を身につけさせる。
- 2 日時： 平成24年12月14日（金） 8：10～16：00
- 3 場所： 三菱重工業株式会社高砂製作所、サントリープロダクツ株式会社高砂工場
- 4 参加生徒： 千種中学校第2学年22名、千種高等学校第2学年29名 計51名
- 5 日程：

8：10	中高生集合完了（高校生徒玄関前）
8：15	開校式
8：30	千種高校出発
10：00	三菱重工業高砂製作所着・会社概要説明
11：00	A班 三菱重工製作所見学（中11 高15） B班 サントリー工場見学（中11 高14）
12：00	昼食
13：00	A班 サントリー工場見学 B班 三菱重工製作所見学
14：30	三菱重工業高砂製作所発 ＜山崎の生徒は途中下車＞
15：50	千種高校着
15：55	閉校式・解散

- 6 引率教員： 中学校4名 （喜多校長、谷尻、山本、金本）  
高 校4名 （原田教頭、藤本、角野、藤原）



今年度も中高連携の社会科見学授業を実施し、三菱重工業様とサントリープロダクツ様に大変お世話になり、生徒たちも実地の企業見学が出来て多くを学ばせていただきました。

三菱の工場へは、ヘルメットと説明を聞くための機器を装着して向かいました。工場内では機械の大きさが予想以上であったと驚きの声が上がりました。そしてその機械を使いこなす技術の高さなどは、さすが最先端に行く企業！また、工場内で誰かとすれ違った時には「ご安全に」と挨拶するなどの、普段とは違う習慣に興味を持った生徒もいました。

サントリーの工場では、普段からよく知っている商品も登場し、製造工程や行っている環境活動について説明してもらいました。生徒たちは自分たちが普段飲んでいる製品がどのように作られているか、興味津々。環境活動について聞いた話も相当印象深いようでした。ペットボトル10本で服が1着できるとは！

参加した生徒たちは、「勉強したことを生かしていきたい。」「実際に目で見て学べて、いい体験ができた。」「進路を考えるのに役立てられればいいと思った。」など、中学生は中学生の目で、高校生は高校生目で思い思いの感想を述べてくれました。教室の授業とはまた違う体験であり、貴重な時間となったことは間違いありません。4月から新3年生となる彼らが、今回の行事を自分の今後に役立ててもらうことを期待しています。

## 30 第38回生3年間の取組について

第3学年主任 福永順二郎

本校は、全国的に見ても一学年一クラスの小さな学校であるが、地域にはなくてはならない学校である。この学年は連携型中高一貫教育の一期生であり、中学校や地域の期待も高く、誰もが注目をして見ておられた。生徒は非常に明るく素直で良い子が多い。故に、県下に誇れる学校の中心的学年とするべく、3年間をかけて厳しく育てた。

- 1 勉強： チャレンジの生徒の学力アップ・アクティブの生徒の基礎学力アップ。ベーシックについては資格取得に主眼を置く。家庭学習の確立が肝要。
- 2 生徒指導： 躰教育・基本的生活習慣の確立を目標に問題行動いじめゼロを継続。
- 3 行事： 各行事を通じて達成感や成就感を味合わせるように全力で取り組ませた。

### 具体的な取組

#### 1 勉強

- (1) 学習習慣の確立（1学期 欠点 ゼロ）
- (2) 週3回の小テストを朝のホームルームで（国・英・数）・週一回の読書。基礎・基本の徹底を図った。
- (3) チャレンジ生には週末課題や長期休みの課題の強化を図った。
- (4) チャレンジの授業時間数の確保。
- (5) 課題や提出物などを期限までに確実に提出させた。
- (6) 勉強合宿（夏休みに学校外で他校の優秀な教師による補習を実施、勉強面で非常に貴重な刺激を受けた。）
- (7) アクティブの生徒は授業を通してマナー教育や基礎・基本の徹底を図った。

#### 2 生徒指導

- (1) 個々の生徒の理解を深めるべく、生徒の心の中に入り、心に響く指導を徹底した。
- (2) 躰教育を徹底して行った。（例：明るく大きな声で挨拶）
- (3) 欠席・遅刻・早退ゼロを目標に健康管理に努めた。（1学期皆勤8割・学年皆勤賞）
- (4) イエローカードの発行ゼロを実現し、服装指導の徹底を図った。
- (5) 掃除を徹底してさせた。（人の嫌がることを一生懸命やれる人間に育てること）

#### 3 行事

- (1) 修学旅行（異文化に触れたり、体験を多く取り入れて達成感を十分に味合わせ、感動を覚える修学旅行にした。）
- (2) 文化祭 一人一役、全員が舞台へ上がり文化祭を盛り上げた。
- (3) 体育大会 集団演技では見ている人に感動を与える演技をした。
- (4) 水泳実習と登山 大山登山や水泳でしんどい辛い経験をやり通し達成感を養った。
- (5) マラソン大会 しんどいことを一生懸命取り組む姿勢を養った。

学年スローガン：「最高の学年になるよう夢を持って取り組む。」



### 3 1 平成 2 3 ・ 2 4 年度消費者教育推進のあゆみ

総 務 部

平成 23 年 6 月 7 (火)、兵庫県下の 6 高等学校が兵庫県民会館に集いて「ひょうご消費者教育応援協定」を締結し、若者の「消費者力向上」を目指す運動の先頭に立つこととなった。千種高等学校は西播磨を代表してその動きにいち早く参画し、中高連携を軸としながら消費者教育への取組を展開したのである。

#### 1 平成 2 3 年度の取組

##### (1) 中高連携消費者教育学習会・講演会 I

日 時：平成 23 年 7 月 15 日 (金) 9 : 2 0 ~ 1 2 : 1 5 (2 限 ~ 4 限)

場 所：千種高等学校・千種中学校

内 容：テーマ 「冷静に行動できる消費者力を！！」

- 1 中学生グループワーク「契約ってな～に？」
- 2 高校生グループワーク「契約トラブルに気をつけよう」
- 3 全体講演「インターネットとケータイの落とし穴」

講 師 NPO 法人 C キッズ・ネットワーク 代表 大森節子氏

##### (2) 中高連携消費者教育講演会 II

日 時：平成 23 年 11 月 24 日 (木) 1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 0 0

場 所：センターちくさ 4 階 大ホール

内 容：テーマ 「ふるさとを活性化する賢い消費生活のすすめ」

講 師 兵庫県立大学大学院 経営研究科 佐竹隆幸教授

##### (3) 次世代につながる消費者教育フォーラム

日 時：平成 23 年 11 月 25 日 (金) 場 所 県立淡路高等学校

内 容：テーマ 「学校・地域協働の取組事例報告と若者消費力アップの提言」

生徒会役員生徒 3 名が参加し、本校の取組について発表を行った。

##### (4) 啓発グッズ作成 横断幕 1 枚 クリアホルダー 3 0 0 0 部

#### 2 平成 2 4 年度の取組

##### (1) 消費者教育講演会 (千種高校生対象)

日 時：平成 24 年 10 月 19 日 (金) 1 0 : 4 5 ~ 1 1 : 3 5

場 所：千種高等学校 体育館

内 容：「ポータブルゲーム機やインターネットに潜む危険」

講 師 兵庫県情報セキュリティサポーター 篠原嘉一氏

##### (2) 「かしこい消費者」活動応援事業 (バス見学ツアー：西播磨消費生活センター主催)

日 時：平成 24 年 12 月 26 日 (木) 7 : 0 0 ~ 1 6 : 4 5

場 所：姫路中央卸売市場、アサヒ飲料株式会社明石工場

内 容：千種・山崎・龍野北高校生 33 名と西播磨消費者団体会員 14 名が参加し、流通の現場や飲料品製造工程等を見学した。本校生徒会役員 10 名が参加。

##### (3) ひょうご消費者教育応援協定締結校ネットワーク会議

日 時：平成 25 年 2 月 8 日 (金) 1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 0 0

場 所：兵庫県民会館 303 号室

内 容：各締結校の取組事例発表及びパネルディスカッション

テーマ 「消費者教育を次世代につなぐために」

本校から生徒会役員 3 名が参加し、パネリストの一人として生徒会長・清水彩奈さんが本校の取組について発表。消費者団体の方々から大きな拍手と喝さいを得た。

※来年度においても、同様の活動を展開し消費者教育推進の先頭に立つ予定である。

連携型中高一貫教育校

# 兵庫県立千種高等学校

— 消費者教育推進のあゆみ —

**ひょうご消費者教育応援協定締結**  
 「次世代を担う高校生の消費者力向上をめざして」  
 武庫荘総合・有馬・千種・但馬農業・豊岡総合・淡路の県下6高校  
 平成 23 年 6 月 7 日（火）【於：兵庫県民会館】

**中高連携消費者教育学習会・講演会 I**  
 「契約トラブルに気をつけよう」・「インターネットと携帯の落とし穴」  
 講師：NPO法人 C・キッズ・ネットワーク  
 平成 23 年 7 月 15 日（金）【於：千種中学校・千種高等学校】

**中高連携消費者教育講演会 II**  
 「ふるさとを活性化する賢い消費生活のすすめ」  
 講師：兵庫県立大学大学院経営研究科・佐竹隆幸教授  
 平成 23 年 11 月 24 日（木）【於：センターちくさ】

**次世代につながる消費者教育フォーラム**  
 ～高等学校と消費者団体の連携による消費者教育の推進～  
 「学校・地域協働の取組事例報告と若者消費力アップの提言」  
 平成 23 年 11 月 25 日（金）【於：県立淡路高等学校】

**消費者教育講演会**  
 「ポータブルゲーム機やインターネットに潜む危険」  
 講師：兵庫県情報セキュリティサポーター・橋原嘉一氏  
 平成 24 年 10 月 19 日（金）【於：千種高等学校】

「消費者教育推進オリジナルクリアファイル」

## 冷静に行動できる消費者力を!!

#### IV 各教科の取組 1 漢字能力検定実施の記録

国 語 科

実 施 日		級別受検者 内訳			
第 1 回	平成 2 4 年 7 月 1 3 日 ( 金 )	二 級	3 年生	2 名	計 16 名
			2 年生	0 名	
			1 年生	0 名	
		準二級	3 年生	2 名	
			2 年生	0 名	
			1 年生	0 名	
		三 級	3 年生	0 名	
			2 年生	1 名	
			1 年生	0 名	
			中学生	4 名	
四 級	中学生	2 名			
五 級	中学生	5 名			
第 2 回	平成 2 4 年 1 1 月 2 1 日 ( 金 )	二 級	3 年生	3 名	計 16 名
			2 年生	2 名	
			1 年生	0 名	
		準二級	3 年生	0 名	
			2 年生	4 名	
			1 年生	1 名	
		三 級	3 年生	0 名	
2 年生	3 名				
1 年生	3 名				
第 3 回	平成 2 5 年 2 月 9 日 ( 土 )	二 級	3 年生	1 名	計 15 名
			2 年生	0 名	
			1 年生	0 名	
		準二級	3 年生	0 名	
			2 年生	1 名	
			1 年生	1 名	
			中学生	1 名	
		三 級	3 年生	0 名	
			2 年生	0 名	
			1 年生	1 名	
			中学生	4 名	
五 級	中学生	4 名			
	小学生	1 名			
六 級	一 般	1 名			
平成 2 4 年 度 合 格 者 総 数		二級	2 名		計 15 名
		準二級	1 名		
		三級	6 名		
		四級	2 名		
		五級	3 名		
		六級	1 名		

※来年度も小中高一貫して取り組み、千種全体で学力アップ増進をさらに図りたい。

## 2 数学検定での取組

数学科教諭 照本 和生

### 1 数学検定について

数学検定「数検」とは、数学の実用的な技能（計算・作図・表現・測量・整理・統計・証明）を測る検定です。三大検定のひとつでもあり、数検財団が実施している全国レベルの実力評価システムです。いまや数学・算数に関する検定のスタンダードとして進学・就職に必須の検定となっています。日本国内はもちろん、韓国やインドネシアなどでも実施され、海外でも高い評価を得ています。

### 2 本校での取組

今年度も中高連携の一環として千種中学校と合同で団体受験を2回実施することができました。補習は検定の約1ヶ月前から行いました。普段の補習や部活等もあり、なかなか時間がとれませんでした。部活終了後や土曜日に行い、極力空き時間を有効に利用し集中的に学習することができました。そして2級1次合格、準2級合格という成績を収めてくれました。数学離れが進んでいる現代社会において、一人でも多く数学検定に取り組み、数学を身近な存在として感じてもらえたらと思っています。まだまだ人数不足という課題はありますが、数検の取得が生徒の自信につながってくればと、また進学・就職に少しでも有利となればと思ひ、これからも実施していきたいと思ひます。

### 3 今年度の実施状況

第223回（第1回目） 7月22日（日）8名受験（準2級、3級）

第229回（第2回目）11月17日（土）7名受験（2級、準2級、3級）

### 4 数学検定問題の実際

数学検定の問題は、1次の「計算技能検定」と2次の「数理技能検定」から成り立っています。解答時間は、準2級と2級の場合1次が60分、2次が90分です。上記のように、千種中学校の生徒も受験していますが、中学生の場合5級から受けており、この場合は1次2次共に60分となっています。実際の問題の様子は以下の通りです。準2級と2級の数理技能検定から抜粋しています。

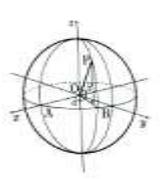
【2級】

【準2級】

問題5. (選択)

右の図のように、地球を半径1の球とみて、中心をOとし、赤道と $0^\circ$ の経線および東経 $90^\circ$ の経線との交点をそれぞれA, Bとします。直線OAを $x$ 軸とし、直線OBを $y$ 軸として、中心OからA, Bへ向かう方向をそれぞれ正の方向にとります。また、北極と南極を結ぶ直線を $z$ 軸とし、中心Oから北極へ向かう方向を正の方向にとります。このとき、点Oを原点としたときの東経 $\alpha$ 、北緯 $\beta$ の地点Pの座標は、 $(\cos\alpha\cos\beta, \sin\alpha\cos\beta, \sin\beta)$  ( $0^\circ \leq \alpha \leq 180^\circ$ ,  $0^\circ \leq \beta \leq 90^\circ$ ) と表されます。

地球上の2点間の最短距離を与える地表面に沿った線は、その中心が地球の中心と一致する円の周上にあることが知られています。この円の長さを40000 kmとして、東経 $45^\circ$ 、北緯 $45^\circ$ にあるX地点と、東経 $135^\circ$ 、北緯 $45^\circ$ にあるY地点間の地表面上の最短距離を求めなさい。答えは四捨五入して上から2けたの整数で求めなさい。〔測定技能〕



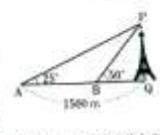
6

右の図のように、水平な地面上に塔が立っています。塔の先端をPとし、地上上の点Qを、PQが塔の高さになるようにとります。点Qから1500 m離れた地上上の点Aから塔の先端Pを見上げたところ、仰角 $\angle PAQ$ は $25^\circ$ でした。AQ上を点Aから点Qに向かって進み、途中にある点BからPを見上げたところ、仰角 $\angle PBQ$ は $50^\circ$ でした。このとき、次の問いに答えなさい。ただし、答えは四捨五入して上から2けたの整数で求めなさい。必要ならば下の三角比の表を用いなさい。

$\theta$	$\sin \theta$	$\cos \theta$	$\tan \theta$
$25^\circ$	0.4226	0.9063	0.4663
$50^\circ$	0.7660	0.6428	1.1918

(8) 塔の高さPQを求めなさい。この問題は答えだけを書いてください。

(9) AB間の距離を求めなさい。



### 5 数学検定突破のポイント

日常の授業を大切に、復習に重点を置いてください。そして、苦手分野の克服をしっかり行うことが肝要です。また、過去の問題を分析し、類似問題を数多くこなすよう心がけてください。いつも「なぜそうなるのか？」という疑問を投げかけながら、数学に触れてもらいたいと思います。そうすれば、数学がいつの間にか好きになり、数学検定も制覇することが出来るでしょう！

### 3 英語検定及び英検対策講座実施の記録

英 語 科

#### 1 実用英語技能検定

中高連携の一環として、本校を準会場とした実用英語技能検定試験（英検）の団体受験を6月、10月、1月の年3回実施しました。

- (1) 第1回実用英語技能検定試験（一次試験：6月8日 二次試験：7月8日実施）  
受験者 21名（内訳＝小学校6名 中学校9名 高校6名）  
2級＝1名 準2級＝5名 3級＝6名 4級＝5名 5級＝4名  
合格者 5名（内訳＝3級…3名 4級…1名 5級1名）
- (2) 第2回実用英語技能検定試験（一次試験：10月12日 二次試験：11月11日実施）  
受験者 22名（内訳＝小学校7名 中学校12名 高校3名）  
2級＝1名 準2級＝5名 3級＝7名 4級＝5名 5級＝4名  
合格者 11名（内訳＝準2級…1名 3級…5名 4級…2名 5級3名）
- (3) 第3回実用英語技能検定試験（一次試験：1月25日 二次試験：2月24日 実施）  
受験者 18名（内訳＝小学校8名 中学校8名 高校2名）  
2級＝1名 準2級＝3名 3級＝3名 4級＝6名 5級＝5名  
合格者 9名（内訳＝準2級…1名 3級…2名 4級…3名 5級3名）

今年度は千種高校生2名が3級に合格しました。また今年度での合格はなりませんでしたが、2級、準2級に何度もチャレンジ中の生徒もおり、放課後の英検対策講座を活用しながらそれぞれの目標に向かって奮闘しました。

#### 2 英検対策講座

インスパイア・ハイスクール事業の一環として、地域の英語講師（磯崎由里香先生）による『中高連携英検対策講座』を水曜日放課後（16：10～17：10）年間10回実施。特にリスニングに重きを置いた内容で、様々なレベルの生徒が一堂に会し、英語に親しみながら力をつけ5級～準2級まで次々と合格。大きな成果を挙げることができました。



## V 部活動の取組 *—光る汗・輝く瞳・草魂千種の活動記録—*

### 1 硬式野球部

顧問 田中 孝英

【顧問】	部長：河島 健	監督：田中 孝英		
【部員数】	3年 8名	2年 4名(マネージャ 2名)	1年 7名(マネージャ 1名)	合計 19名
【戦績】	平成 24 年度 春季県下大会西播支部予選	1 回戦	千種 0-7 山崎	
	第 94 回全国高等学校野球選手権兵庫大会	1 回戦	千種 3-11 県伊丹	
	平成 24 年度 秋季県下大会西播支部予選	1 回戦	千種 2-12 伊和	
	同 敗者復活 1 回戦		千種 0-15 相生産業	

4月に監督が変わり、1年生5人が入部して計15人でのスタートとなりました。3年生にとっては最後となる「夏の公式戦での1勝」を目標に、少人数での練習にも工夫を凝らして日々奮闘しましたが、残念ながらその目標を達成することはできませんでした。3年生の悔しさを引き継ぎ「来年こそは」の思いでスタートした新チームは選手8人…。このままでは試合が出来ないばかりか、日々の練習にも支障をきたす困難な状況でしたが、他部から部員を借りて様々な協力のもと秋季大会に出場させていただくことが出来ました。「野球が出来ることへの感謝」を改めて実感した1年となり、生徒たちは技術や体力だけでなく心も成長したように思います。環境的に厳しい状況は続きますが今後の更なる人間的成長を期待したいです。ご声援よろしくお願い致します。



### 2 スキー部

顧問 角野 陽介

3年生女子2名が所属し、全国大会を目指して頑張りました。今年は3年生であるため進路が決定するまで活動できませんでした。進路が決まってからちくさ高原スキー場でそれぞれ個人で活動しました。特に正月は毎日スキー場まで行き、鍛錬しました。今年は全国大会に行くことはできず残念でしたが、果敢に攻めて最後まで頑張りました。二人の活躍に大きな拍手を送ります。

#### 【公式戦試合結果】

兵庫県高校総合体育大会スキー競技会(おじろスキー場)

1/9～1/11

ジャイアントスラローム 鳥羽 4位、中田 5位

スラローム 中田 4位と鳥羽コースアウト

女子総合 3位

近畿高等学校スキー選手権大会(神鍋スキー場)

1/15～1/17

ジャイアントスラローム 鳥羽 23位、中田 24位

スラローム 中田 13位、鳥羽コースアウト



### 3 男子バレーボール部

顧問 松井 利澄・横瀬 憲一

23年度、9年ぶりに県大会（春高県予選）に出場した勢いのままに24年度前期西播大会では4年連続となるベスト8進出、リーグ戦では、創部以来初の2部リーグ昇格を果たしました。夏合宿、県ビーチ、藤田幸光さんのバレーボールクリニック、丸山弁護士との寒中水泳、パナソニックパンサーズの応援席でのVリーグ観戦、小学生福海寺キャンプでの座禅等、様々な体験を通して人間的な成長も目指してきました。これからも新たな伝統を築いていくクラブであり続けたいと思います。

#### 戦績

4 / 28 (土) 前期西播大会

2回戦 千種② - 0 飾磨

3回戦 千種0 - ②姫路西 ☆ベスト8進出

5 / 12 (土) ~ 5 / 13 (日) 前期西播リーグ戦 (3部)

千種② - 1 伊和 千種② - 0 相生 千種② - 0 県大附 千種② - 0 姫路商

☆3部優勝 2部昇格

6 / 2 (土) 県総体

2回戦 千種0 - ②甲陽

6 / 23 (土) 県ビーチ

谷口・橋本 14 - 21 住田・向 (県伊丹)

中村・城内 7 - 21 武久・正司 (津名)

8 / 7 (火) 春高県予選西播予選

2回戦 千種0 - ②姫路南

敗者復活 千種0 - ②飾磨工業

8 / 31 (金) ホープ杯 (西播大会)

予選 千種0 - ②市川

千種0 - ②龍野

9 / 29 (土) ~ 9 / 30 (日) 後期西播リーグ戦 (2部)

千種0 - ②姫路東 千種0 - ②姫路南 千種0 - ②姫路西

千種0 - ②相生 ☆2部5位 3部降格

11 / 23 (金) 秋季西播大会

1回戦 千種② - 0 佐用

2回戦 千種② - 0 龍野

12 / 24 (月) ~ 12 / 25 (火) 西播新人大会

1回戦 千種0 - ②福崎

敗者復活 千種② - 0 市姫路

千種0 - ②姫路東

<平成24年度練習試合相手校>

(西播) 山崎・相生・飾磨・福崎・伊和・香寺・市川・姫路商・佐用・県大附

(東播) 北条

(但馬) 豊岡総合・八鹿・村岡・香住

(淡路) 洲本実

(鳥取県) 八頭・岩美

(岡山県) 津山・勝山・真庭・勝間田・林野・津山東



## 4 女子バレーボール部

顧問 照本 和生・沼田 真穂

4月。3年生2人、2年生4人の試合出場ギリギリのチームに1年生1人が入部し、計7人でのスタートとなりました。昨年度は、なかなか人数も集まらず十分な練習もできず、試合では十分な結果を出すことはできませんでした。悔しい思いをしてきた分、今年度は意気込みが違い、「まずは1勝を」を目標に今年度はやると決めて熱心に練習に取り組んできました。その成果もあり、西播大会で見事初勝利を手にすることができました。生徒が一丸となって一生懸命に取り組んだ成果であり、次の総体に向けてさらに活気づきました。3年生にとっての総体は惜しくも敗れましたが、その悔しさをバネにして新チームで頑張ろうという意識が芽生えました。

総体後、1年生1名がさらに入部し新たなる出発をいたしました。夏休み期間には、伊和高校と合同合宿を行うなど、意欲的に活動してきました。チームも一つにまとまりかけたのに、ここで怪我人が出始め、また人数が揃わない日々が続きました。辛うじて県西播予選大会、後期リーグ戦、秋季西播大会、後期西播大会とすべての試合に出場することができましたが、なかなか勝利を手にすることはできずに辛い日々が過ぎていきました。試合には勝てなかったものの、部活動でしか味わえない経験をする事ができたと思います。部活動を通して、人間的にさらに成長することを期待したいです。

### 戦績

- 4 / 28 (金) 前期西播大会  
千種0 - ②山崎
- 5 / 12 (土) 前期西播リーグ戦 (5部)  
千種② - 1伊和  
千種0 - ②佐用
- 6 / 2 (土) 総合体育大会  
千種0 - ②生野
- 8 / 7 (火) 県西播予選大会  
千種0 - ②赤穂
- 9 / 29 (土) 後期西播リーグ戦 (5部)  
千種0 - ②市姫
- 11 / 23 (金) 秋季西播優勝大会  
千種0 - ②赤穂
- 12 / 24 (月) 後期西播大会 (本戦)  
千種0 - ②赤穂
- 12 / 24 (月) 同大会敗者復活戦  
千種1 - ②県立大附属



## 5 ソフトボール部

顧問 上山 麻美・福永 順二郎

平成22年4月に連携型中高一貫教育1期生が入部し、単独チームとして試合に出場できるようになりました。小規模校であるが故に、集団スポーツを成立させて「勝つ」ことで、学校や地域にも活気を与えようとして取り組んできました。そして何より、どんな困難な状況の中でもあきらめることなく目標に向かって努力する姿勢を育み、人間的な成長を目的としてきました。日々の練習、試合をする中で、部員自ら目標を掲げ、着実に力を伸ばすようになりました。そして、西播大会準優勝、県大会ベスト8、近畿公立高校大会出場を果たしました。一人一人が技術、体力だけでなく、心も成長していると感じています。保護者、地域の方々には常日頃ご協力、温かいご声援を頂き心よりお礼申し上げます。

現在、部員が2人と厳しい状況ですが、春の大会に向けて、今年の冬も地道に練習に励んできました。来年度は、新入部員を確保し頑張っていきたいと思っておりますので応援よろしくをお願いします。

### 戦績

平成22年4月	前期西播大会	2回戦敗退
6月	県総体	2回戦敗退
8月	夏季リーグ戦	Dリーグ優勝(4勝0敗) Cリーグ昇格
9月	後期西播大会	3回戦敗退
		敗者復活戦に勝利し県大会出場を決める
☆ベスト8		
11月	県新人大会	3回戦敗退
☆ベスト8		
	兵庫県選抜大会出場(12チーム)	
	秋季リーグ戦	Cリーグ優勝(4勝0敗) Bリーグ昇格
平成23年1月	近畿公立校大会	1勝2敗1分け
4月	前期西播大会	第3位
6月	県総体	4回戦敗退
☆ベスト16		
8月	夏季リーグ戦	Bリーグ2位(3勝1敗) Aリーグ昇格
9月	後期西播大会	3回戦敗退
		敗者復活戦に勝利し県大会出場を決める
11月	県新人大会	1回戦敗退
	秋季リーグ戦	Aリーグ3位(2勝2敗)
平成24年4月	前期西播大会	準優勝
6月	県総体	2回戦敗退(タイブレーカー)



## 6 ゴルフ部

顧問 松井 利澄・照本 和生

ゴルフ部は、部員1年5名、2年2名の計7名で活動しています。夏合宿、冬合宿、八幡ゴルフセンターでの赤澤プロ、香川プロによるレッスン、追分GCでのショートコース等、様々な活動を通して体と心を鍛えてきました。春と冬のチャレンジカップ（西播大会）にも出場し、上を目指して頑張っています。ゴルフ場の皆さん、教えてくださる先生方、校内ゴルフ練習場の整備をいただいた池田さん、事務長さんをはじめ、ゴルフ部に関わってくださる全ての人への感謝の気持ちを大切に、さらなる飛躍を誓います。

### 年間ラウンド一覧

4/26（木）3支部合同チャレンジカップ（粟賀GC）

春名浩幸 140（65/75） 19位

6/18（月）練習ラウンド（播州CC）

8/21（火）～8/22（水）夏合宿（千草CC）

9/17（月）練習ラウンド（千草CC）

10/6（土）ハーフ練習ラウンド（千草CC）

10/19（金）ハーフ練習ラウンド（千草CC）

11/5（月）練習ラウンド（千草CC）

12/27（木）練習ラウンド（播州CC）

1/6（日）～1/7（月）冬合宿（ペニンシュラ湯郷）

1/29（火）3支部合同チャレンジカップ（吉川インターGC）

内海秀星 118（59/59） 11位

矢内誠也 135（64/71） 14位

春名浩幸 棄権

3/17（日）練習ラウンド（千草CC）

3/28（木）ハーフ練習ラウンド（千草CC）



<八幡ゴルフセンターにて>



<千草CC 村上登茂七先生銅像前にて>

## 7 ライフル射撃部

顧問 横瀬 憲一・久保田 美賀子

1 部員数：4名（男子3名、女子1名）【平成25年3月現在】

2 出場公式試合：

- ・全日本ジュニアビームライフル射撃競技大会

【日時：4月28日・29日 場所：岐阜メモリアルセンター】

【参加者：3年生1名、2年生1名】

- ・兵庫県大会

【日時：5月13日 場所：兵庫県立明石西高校】

【参加者：3年生1名、2年生2名】

これにより、インターハイに1名、近畿大会に2名の出場が決定

- ・近畿高校春季ライフル射撃選手権

【日時：6月17日 場所：能勢町国体記念スポーツセンター】

【参加者：(ビームライフル) 3年生1名、2年生1名 (ビームピストル) 2年生1名】

- ・全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会

【日時：7月28日～31日 場所：広島県つつがライフル射撃場】

【参加者：(ビームライフル) 2年生1名】

- ・国民体育大会 近畿ブロック

【日時：8月19日 場所：和歌山市東部コミュニティセンター】

【参加者：(少年女子ビームライフル兵庫県代表) 1名 結果：3位（本戦出場ならず）】

- ・近畿高校秋季ライフル射撃選手権

【日時：11月18日 場所：能勢町国体記念スポーツセンター】

【参加者：(ビームライフル) 2年生1名 結果：6位入賞】

個人スポーツであるが故に、自分との戦いが続く孤独なスポーツである。各自の目標を定め、いずれはインターハイに3名以上の出場を部全体の目標として頑張ってきた。その中で、1名だけではあるが、今年度で4年連続となるインターハイ出場を果たした。また、県の代表として、国体近畿予選にも出場し、重圧のかかる中、3位表彰を受けた。特に、2年生の成長はめざましいものがあり、日々の練習を欠かすことはない。その姿勢を見て、後輩である1年生も各自努力をし、自分のベストを尽くすようになっている。部全体として、いい雰囲気練習できており、練習に集中できる場所になってきている。

来年度には、これまでの実績の上に立って新入生を迎え、さらなる発展を望みたい。



## 8 サッカー部

顧問 角野 陽介・藤原 正憲

部員は1年生5名、2年生2名、3年生5名で毎日活動しました。ほぼ全員が高校からサッカーを始めましたが、毎日活動し上達しました。

8月2日に地域のサッカー教室を開催し、部員が小学生をリードし、一緒にサッカーを楽しみました。

8月11日にはOB戦を開催し、現役チームとOBチームで試合を行いました。内容は点を取ったり取られたりとシーズンゲームになりました。2001年創部以来、多くの卒業生を輩出してきましたが、今回創部時の卒業生が多く参加し、当時を懐かしみながら楽しくサッカーができました。12月の新人戦西播予選では、1・2年生9人で試合に臨んだため、いつも以上に失点しましたが、次につながるいい経験ができました。



### 【公式戦試合結果】

- 1 兵庫県総合体育大会 2回戦（2回戦から）千種0-15 明石南
- 2 兵庫県選手権大会西播予選 1回戦 千種0-16 香寺
- 3 兵庫県高等学校新人大会西播予選 1回戦 千種0-25 龍野

## 9 カルチャー部（軽音楽）

顧問 沼田 真穂

1 部員数：1年6人、2年4人、3年3人 計13人

2 活動日：月曜日・木曜日

3 活動場所：音楽準備室

4 活動記録：

①桜まつり

4月15日（日）  
大通り広場  
「栄々人來」



②文化祭

6月16日（土）  
本校体育館



③妙見夏祭り

7月21日（土）  
千種小学校  
グラウンド



④JAふれあい秋まつり

11月18日（日）  
JAハリマ  
千種営業部



## 10 茶華道部

顧問 久保田 美賀子

1 部員数：1年3人、2年2人 計5人

2 活動日：火曜日・水曜日

3 活動場所：特別教室棟1階 作法室

4 活動記録：

①文化祭 6月16日（土）

お茶席・生花展示  
本校特別教室棟1階 作法室

②千種小学校まなびっとクラブ 8月21日（火）

お茶席 本校特別教室棟1階 作法室



## 1 1 ボランティア部

2年 春名美咲 山尾紋未

普段は、一人暮らし高齢者の方、二人暮らし高齢者夫婦の方々等のお宅に、お弁当を配食しています。その他には、地元商店街の集客イベントへの参加、千種町内の美化活動、雪遊びボランティアや老人ホームでの花植えボランティアなどを行っています。日常生活では、高齢者の方々や、地域の方々と関わる機会が減っていますが、ボランティア部の活動を通して、たくさんの方々とお会いし、直接お話することができます。温かい地域のみなさんに支えられ、地域に貢献できるボランティア部を目指し、これからも笑顔と元気を届けていきたいと思ひます。



(花植えボランティア)



(配食)



(ボランティアまつり)



(ちくさ桜まつり)

## 1 2 パソコン部

顧問 藤本 聡子

### 一般講座「パソコン教室」開催

- 1 日時： 平成24年11月12日(月) 15:30~17:00
- 2 目的： 地域住民や保護者の参加可能な授業を開放することにより、地域との連携を深めて、開かれた学校づくりを一層推進する。
- 3 参加者： 9名
- 4 内容： 表計算ソフト(エクセル)で、「会計台帳を作ろう！」
- 5 その他： パソコン部員3名がアシスタントとして参加しました。  
最初は緊張していましたが、参加者の方々の温かい雰囲気のおかげで段々と打ち解け、質問にも丁寧に受け答えすることができました。講座内容もスムーズに運び、アシスタントの役割を立派に果たし、参加者の皆さんに喜んでいただくことができました。

## VI 平成24年度式典の記録

### 1 入学式 校長式辞

#### 第四十回入学式式辞

ことのほか厳しかった冬も終わり、山の木々にも、校庭の桜にも、ようやく春の到来が感じられる頃となりました。

明るさと希望に満ちたこの佳き日に、宍粟市教育長 小倉 庸永 様を始め、多くのご来賓、保護者の皆様のご臨席を賜り、平成24年度 兵庫県立千種高等学校の入学式を挙行できますことは、私ども教職員一同、この上ない喜びでございます。

ただ今、本校の第40回生として、入学を許可しました37名の皆さん、入学おめでとうでございます。保護者の皆様、本当におめでとうでございます。心よりお祝い申し上げます。

私たち教職員はもとより在校生全員が、皆さんの入学を心から歓迎いたします。また教職員一同、大事な子どもさんを預かる責務の重大さを痛感し、皆様方の期待と信頼に応えるべく、一丸となって努力を惜しまず取り組む決意です。

さて本校は、昭和23年県立山崎高等学校千種分校として発足し、昭和50年には生徒数の増加にともない、地域の方々の願いにより県立千種高等学校として独立をしました。

開校以来「自立・信愛」の校訓を掲げ、これまでに数多くの人材を輩出し、卒業生は各方面で活躍されています。そして、ご存じのとおり平成22年度から兵庫県初の「連携型中高一貫教育校」として、連携入試が始まり、今年で3年目を迎え、文字通り特色ある高等学校として再出発しました。全校生徒102名の小さな学校ですが、「地域の子は地域で育てる」との理念のもと、卒業生をはじめ、地域の皆様の絶大なるご支援により、また教職員の情熱溢れる指導の下、連携行事・連携授業や部活動での取り組みやなどを行っています。その活動は、兵庫県はもとより他府県からも小規模校のパイロット校として、非常に高い評価を頂いているところであります。今後、千種高校がさらに発展をしていくためには、職員・在校生はもとより、新入生の頑張りがぜひとも必要です。

そこで、本校で学ぶ新入生の皆さんに3つのことを話しておきたいと思います。

一つ目は、あいさつができる人になる。あいさつは良好な人間関係を育むための基礎基本です。明るい笑顔で気持ちの良いあいさつをしましょう。

二つめは、感謝の心が持てる人になる。私たちは、人と人の関わりの中で生活をしています。自分を支えてくれている保護者や先生、友だち、地域みなさんに感謝の気持ちを持って下さい。

三つめは、人の話が素直に聞ける人になる。学校は人間をつくり、勉強をするところです。人の話が素直に聞ける人は大きく成長します。

今日から千種高等学校での生活が始まりますが、若さを精一杯燃焼させ、多くを吸収し、充実した高校生活を送られることを、心より願ひまして、式辞といたします。

平成24年4月9日

兵庫県立千種高等学校長

浅田 尚宏

## 2 卒業証書授与式

### (1) 校長式辞

#### 第三十八回卒業証書授与式式辞

三室の山並みには雪を残しながらも梅のつぼみが膨らみ、千種川のせせらぎに注がれる陽光にも日ごとに春の伊吹が感じられる今日の佳き日に、兵庫県立千種高等学校第38回卒業証書授与式を厳粛のうちに挙行できますことは、私ども教職員一同この上もない慶びであります。また、多数のご来賓、保護者の皆様のご列席を賜り、卒業生の門出を祝福していただきますこと、高い席からではございますが、心より厚くお礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました35名の皆さん、卒業おめでとうでございます。校訓「自立・信愛」のもと、学業にクラブ活動にひたすら研鑽と精進を重ね、本日、栄えある卒業の日を迎えました。本校を巣立って行かれる皆さんの一人ひとりに、心から贅辞を贈ります。また、保護者の皆様・ご家族の皆様、深い愛情を持って、ただひたすらに成長を願い続けて、これまで大切に守り育てていただいたご苦労が、今ここに、実を結んだ喜びに対し、心よりお祝い申し上げます。

さて本校は、平成22年度から兵庫県初の「連携型中高一貫教育校」となり、千種中学校と文化祭・体育大会・マラソン大会をはじめとする行事、各教科の授業などの連携を進めてきました。教職員はもとより、同窓会をはじめ地域の方々の情熱的な支援により、魅力ある学校づくりに取り組み、その成果は高く評価されています。その一期生となる卒業生の皆さんが日々実践してきた、「明るいあいさつ」と「さわやかな笑顔」は本校の校風となりつつあります。38回生の皆さんは、一人ひとりが勉強・クラブに武両道の頑張りを見せ、一段と輝き、学校の発展に大いに貢献してくれました。

皆さん いよいよ明日からは、母校を巣立って新しい人生に挑戦していきます。皆さんの輝かしい門出にあたり、二つのこととお話ししたいと思います。皆さんが実践してくれた「気持ちの良い挨拶」は人と人が生きる社会で とても大切です。良好な人間関係や信頼関係を築くための第一歩です。どうか、たくさんの人と出会い、太い絆を結び、豊かな人生を歩んで欲しいと思います。そのために「いつでも笑顔で挨拶のできる人であってほしい」と思います。

次に本校玄関に幕末から大正初期に活躍した経済人、渋沢栄一の座右の銘の書があります。「名を成すは、毎に窮苦の日在り、敗れる事の多くは、得意の時に因る。」と読みますが、みなさんにその言葉を贈ります。これは「物事に成功したり、立派な行いや人間としてよりよく成長するのは、困ったり苦しんだりしたことにより達成される。反対に、失敗したり敗れたりすることの多くは、物事がうまくいき有頂天になっている時である」という意味です。

皆さんのこれからの人生は大洋を航海するようなもので、楽しい中にもいろいろな困難や、障害も待ち受けていることでしょう。国際社会の緊迫の度が高まり、これからの世界・日本の情勢は益々不安定で不透明な時代かもしれません。苦しい時、挫折しそうな時、この言葉を思い出し乗り越えて欲しいと思います。

ここ千種の地で学び、体験し、培ってきたことを生かし、生涯にわたり学び続けていく姿勢・考える続ける姿勢が大事だと思います。「挑戦」の二字を忘れず、夢達成への道を歩んで下さい。

最後となりましたが、卒業生のみなさんの一層の飛躍と限りなき未来に幸多かれとお祈り申し上げ、式辞といたします。

平成25年2月28日

兵庫県立千種高等学校長

浅田 尚宏

## (2) 在校生送辞

厳しい冬の寒さも和らぎ、新しい暖かな春の訪れが感じられる今日の良き日、晴れてこの千種高校を卒業される第38回卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

先輩方と過ごした千種高校での日々は、今でも深く胸に刻まれ、まるで昨日のことのよう鮮明に思い出すことができます。私たちの目に先輩方の姿はいつも輝いて映っていました。

そんな中でも思い出深い学校行事は、中高連携の文化祭と体育大会です。文化祭のステージ発表では、準備にいち早く取り組まれ、団結して成功へと推し進めていかれる様子が改めて先輩方のすごさを実感しました。とくに、幼い頃の写真とともに、先輩方一人一人が将来の夢について語られているのを見て、私たちも先輩方のように胸を張っていえるような夢を持ちたいと強く思うようになりました。

体育大会では、クラス一丸となって2年連続総合優勝を成し遂げられました。仮装では、担任の上山先生のウェディングドレスや演出の完成度の高さに驚かされました。先輩方の競技や演技に打ち込む姿勢は、とても力強く、そして爽やかですがすがしく、周りのみんなに元気と勇気を与える、まさに中高連携の立役者でした。

また、これらの行事を企画・運営する生徒会では、夜遅くまで残って準備をしました。先輩方はいつも分かりやすく教えてくださり、頼ってばかりいました。新生徒会になり、まだまだはじめがつけられず失敗もありますが、先輩方を見習い、学校を盛り上げていきたいと思えます。

そして、学校行事以外で、先輩方との絆を深めた一番の思い出は部活動です。私が所属するバレーボール部では、人数が6人というぎりぎりの状態でした。練習もなかなか全員そろわず、試合でも思うようなプレーができずに途中でやめたくなくなったこともありましたが、しかしそんな時、先輩方は私たちに優しく声をかけ、強い気持ちで引っ張ってくださいました。先輩方と一緒に辛い時期を乗り越え、いろいろな経験ができたことは、私たちの自信につながっています。

このように何事にも一生懸命に、目標に向かって努力されている先輩方は、私たち後輩の憧れでした。先輩方と過ごした時間はかけがえのない宝物です。

本日、先輩方は中高連携入試がスタートしてから、初めての卒業生としてこの千種高校を旅立たれます。これからの人生の中には、大きな苦労や困難が待ち受けているかもしれませんが、しかし、つらい時こそ、この千種高校で過ごした3年間を思い出してください。そこには共に学んだ友人や、励まし支えて下さった先生が居られたことを。先輩方ならきっと乗り越えることができると思います。

私たち在校生は、少しでも先輩方に追いつけるよう、そしてまた、先輩方が築いてこられた伝統を受け継いで、部活動や進路で実績を残し、より良い学校にしていきたいと思えます。

名残は尽きませんが、いよいよお別れの時です。最後に、ご卒業される皆様のご健康とご活躍を心よりお祈りし、送辞とさせていただきます。

平成25年2月28日

兵庫県立千種高等学校

在校生代表 阿曾 凌佳

### (3) 卒業生答辞

#### 答 辞

春と呼ばれる日は迎えたものの、まだ吐く息は白く、時折寒風が通り過ぎる今日、私たちを送って下さる御来賓の皆様、先生方、在校生のみなさん、卒業生を代表して御礼申しあげます。それから、私たちをここまで育ててくれた、お父さん、お母さん。反抗的な態度もとったし、たくさん迷惑もかけました。でも、この日を迎えられるのはお父さん、お母さんのおかげです。ありがとう。

3年前、私たちは中高連携一期生として、この千種高校の生徒となりました。各々が自分の目標を立て、部活動や勉強など、高校生活という名の青春を謳歌し始めました。いろいろと不安なことがありましたが、優しく頼もしい先輩たちのおかげで楽しい日々を送ることが出来ました。

2年生になり、大山登山に挑戦しました。小雨でしたが、雨の降る中での登頂でしたので、ぬかるんだ地面に足を取られ、雨によって体温も奪われる悪条件でしたが、仲間たちと共に励まし合い頂上を目指しました。木々がおい茂る中を抜け、岩場を登り、一人も欠けることなく頂上にたどり着きました。霧で壮大な景色こそ見ることができなかったものの、長く険しい道のりを登りきった時の達成感。どんな言葉を使っても言い表せないほどの充実感。それだけで十分な成果があったと思います。

そして、待ちに待った、修学旅行。私たちはグアム島に行きました。初めての海外旅行ということで、始めのうちは不安もありましたが、青く輝く空、サンサンと降り注ぐ太陽、そしてそれらを際立たせる美しい海、これらを見るとすぐに不安など消え去りました。その中で、私たちはふだん体験することのできない様々な体験をしました。「マンタ」と呼ばれる絶叫アトラクションやバナナボートを、体験するのは勿論、見ているのも楽しかったです。特にバナナボートでグアムの海を迫力あるスピードで駆けるのは、さながらイルカにのっているような気分になれました。また、学校訪問を行い、同じ年齢のグアムの高校生と交流しました。バレーボールやバスケットボールなどをして親交を深め、言葉は通じなくても思いは伝えることができるということ学びました。そして、修学旅行で最も思い出に残っているのはナイトバザールの会場である、チャモロビレッジでみんなで空手の演武やソーランを踊ったこと、東北の被災された地域に送るためのチャリティーの一環として、学校で作った木工品を売ったことです。誰も販売の経験はなく、まして、相手は言葉の通じない外国の方々。不安や戸惑いで押しつぶされそうになりました。しかし、私たちの持ち味である元気と気合で声をからしながら必死に売りました。その様子を見てたくさんの方が協力してくださいました。その方たちの厚意はとてありがたく、本当にうれしかったです。慣れない海外旅行でしたが、とても貴重な経験をすることができました。

3年生になり、最高学年としての自覚、そして高校生活も最後だという思いをそれぞれが抱きました。毎日が高校生活の終わりへと向かっていくのを感じ、平凡な一日が大切に感じられました。最後の文化祭では、「卒業」をテーマに仲間の大切さや、ありがたさを一つの劇に込めました。1年次、2年次のときとは趣向をがらりと変えた青春劇でしたので作品を作る過程では何度も練り直しました。そのため、完成した時はとても嬉しかったです。反響も上々でした。「感動した」、「面白かった」など、温かい言葉もいただきました。そして体育祭。学級旗に掲げた文字は「絆」。学年対抗競技では、個人が出せる力のすべてを出し切り、演技では一同集中し、会場を沸かせました。中高連携学年選抜リレーでは走者の走りに応援組は大変盛り上がりました。気がついたら、全員がひとつになっており、見事、優勝しました。

学年間だけではなく、先輩や後輩たちともこの高校生活では信頼し、支え合ってきました。生徒会に入り、会長となって不安な時にも支えてくれたのは仲間と後輩たちでした。

私が会長としての責任を果たすことができたのは、みんながいてくれたからです。後輩に向けて何かを伝え、教え導くのが先輩としての責務だとは思いますが、反対に後輩の皆さんから教えられたことはたくさんありました。頼りない先輩であったかも知れませんが卒業にあたって後輩の皆さんにこの言葉を残したいと思います。

「今日という日は新しい人生の最初の日。」

人生は毎日が始まりであり、それと同時に終わりでもあります。それならば、いつまでも同じ自分でなんかいられない。変わり始めなければ。人は誰でも変われます。大事なものは変わろうとする意志です。新しい自分になり、新しい人生を謳歌してください。その中で高校生活という青春を輝かせて下さい。みなさんには、心から感謝しています。そして私たちが去った後の千種高校を頼みます。

最後に、私たちの担任をしてくださった上山先生。年が近いこともあり、個人的なことも話しやすかったです。そして先生の話もしっかりと胸に届きました。私たちの将来のことも親身になって考えてくださいました。歩むべき道を間違えそうになった時も優しく手を差し伸べていただきました。先生には何度も助けられました。感謝してもしきれません。今の私たちには恩を返せる力も、時間もありません。ですから、いつか、いつになるかはわかりませんが、返して見せます。2年間という短い歳月でしたが、先生が私たちの担任でよかった。心からそう思います。先生、お世話になりました。そして、ありがとうございました。

今日、私たち三十八回生は千種高校を巣立ちます。仲間と別れ、みんなと築いた絆を胸にいだき、それぞれの未来へ歩き出します。

みんな、寂しいけれど互いの絆を忘れないで、新しい明日へ進もう。ここで過ごした3年間。特別な時間。

みんな、ありがとう。

平成二十五年二月二十八日

卒業生代表 堂場 祥平



# Ⅶ 平成24年度学校評価

## 平成24年度 学校評価 関係者評価票

兵庫県立千種高等学校		学 校 名
1	<p><b>学校教育目標</b></p> <p>全生徒が進路型中高一貫教育校への改編後の入学生となり、夢を形にする進路指導の成果をはじめ、全生徒、保護者の本校に対する満足度をこれまでに高められる特色ある教育の展開に努める。</p>	<p><b>4 自己評価の実施方法についての学校関係者評価</b></p> <p>生徒、保護者、進路中学校の生徒にアンケートを実施し、その結果を踏まえた上で、自己評価していることは評価できる。また評価を点数化しているのは分かりやすい。</p>
2	<p><b>重点目標</b></p> <p>①地域・保護者に期待され、信頼される魅力ある学校づくりを推進する。</p> <p>②千種中学校区幼少連携・小中一貫推進事業との連携を深め、まちづくり活動を推進する。</p> <p>③確かな学力・豊かな人間性をそなえ、進路実現に向けて努力する生徒を育成する。</p> <p>④体育的諸活動を通して心身を鍛磨し、将来の社会生活で逞しく生きる体力・精神力を養育する。</p> <p>⑤教職員は生徒に夢と自信を与えられるよう、資質能力の向上に努める。</p>	<p><b>5 総合的な学校関係者評価</b></p> <p>自己評価、今後の改善策は概ね適切である。特に下記の改善策は実践されることを期待したい。ただし、あいさつも含め何事も、生徒が教員に「やがて」と感じさせてはほしくない。その意義を理解して初めて、自発的な言動や行動につながる。教員の生徒に対する接し方、指導の仕方が問われている。改善策がどれほど適切であっても、教員自身の内面に魅力がなければ効果はない。教員に求められるものは大きい。本校存続のため、地域へ足を運ぶ努力もしてほしい。連携型中高一貫教育校に改編され、3年を経過した。これまでに定着期と位置づけ、学力向上を軸として、これまで以上に進路教育の発展・充実を目指して中高で連携を図り、各種の取組や活動を推進して欲しい。そのための実践目標や実践項目が来年度は盛り込まれることを期待する。</p>
3	<p><b>自己評価結果(5段階評価:「5」が良くて、「1」はできていない)</b></p>	<p><b>自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価</b></p> <p>ホームページによる情報発信の自己評価は高すぎる。高齢化の進む本校周辺地域ではネット環境は充実しておらず、閲覧者の年齢層は限られている。真に地域に理解される学校を自指すには、町づくり協議会等の各団体の会合に教員が参加し、本校の取組を伝える努力が必要である。中高連携マラソン大会は地域の関心が高い。今後は保幼小の園児、児童も参加した大会になって欲しいと願う地域住民が多い。ホームページのブログにコメントが記入できるようにならないか検討して欲しい。</p>
4	<p><b>実践目標</b></p> <p>ホームページの充実・改善を図り、学校の様子を随時発信する。</p>	<p><b>課題・改善策</b></p> <p>ホームページのリニューアルと種々の更新によりアクセス数は増えた。学年ページを設ける等更なる工夫をする。情報を受け取る保護者や地域からの感想を聞き取り、改善、改良を怠らないよう努める。</p>
5	<p><b>実践項目</b></p> <p>学校行事、授業参観等を実施し、開かれた学校づくりに向け、その感想や意見を学校経営に役立てる。</p>	<p>文化祭、連携マラソン大会は多数の来校、応援があり、地域の本校に対する関心の高さと受け止める。本校が地域交流の場となる工夫を模索していく。</p>
6	<p><b>実践項目</b></p> <p>生徒が地域と関わる機会を増やし、地域社会の発展を願う気持ちを高揚させる。</p>	<p>生徒が地域と関わる機会は昨年度以上に増えているが、教職員の意識の向上が課題。山崎高校の「街の駅」からヒントを得た活動を検討する必要がある。</p>
7	<p><b>実践項目</b></p> <p>千種中学校区の児童・生徒との交流を深め、「行きたい高校」として本校の存在を身近に感じさせる。</p>	<p>体育と理科以外の教科では目標を達成できていない。その他の教科による働きかけの機会を中学校のみならず、小学校に対して増やしていく。</p>
8	<p><b>実践項目</b></p> <p>挨拶の励行等基本的な生活習慣および品格ある自覚した行動の確立に努めさせる。</p>	<p>生徒が登校時や校舎内で自発的に挨拶することは定着してきたが、授業の開始前と終わりのあいさつは不十分である。今後徹底させる必要がある。</p>
9	<p><b>実践項目</b></p> <p>インプロ学習・教科学習を通して、生徒が自己の意見を論理的に明確に表現できるよう指導に努める。</p>	<p>インプロ学習、生活体験、人権作文、課題研究、職業体験等について、生徒自らが体験し、それを通して学んだこと、気づいたことを自ら発表する機会を増やす。</p>
	<p><b>実践項目</b></p> <p>地域貢献活動、就業体験、ふれあい育児等の体験的活動を多く取り入れ、生徒個々の自己有用感を高める。</p>	<p>生徒が主体的に行動する姿勢をさらに育成するためには、現在の活動の場(校内・町内・市内)だけでは不十分である。神戸、大阪、京都等に広げて、もっと広い世界を生徒に見せてやるべき。その点では自己評価は高すぎる。登下校時のあいさつは、学校園を基盤に、地域をあげてさらなる啓発が必要である。「生徒の発表の機会を増やす」とあるのは必要なことであり、評価できる。</p>
	<p><b>実践項目</b></p> <p>部活動、委員会活動への参加を積極的に推進し、充実した高校生活を支援する。</p>	<p>生徒が自主的に考え、行動する体験的活動にするとともに、事後に生徒同士が感想等を発表し合う機会を設ける。</p>
	<p><b>実践項目</b></p> <p>LHRや面談等を通じて、主体的な進路選択能力の育成を図る。</p>	<p>教員数、生徒数を考慮し、部活動の数を見直すか、外部コーチの導入の可能性について検討する必要がある。</p> <p>生徒がどのような人生を歩みたいか、そのために必要な知識・技能は何かを考えさせ、一人ひとりに寄り添い、具体的かつ詳細に指導していく努力を怠らないよう努める。</p>

NO. 2

実践目標	実践項目	評価	昨年	課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
10 生徒の興味・関心を高め、心算した教育活動を展開し、「分かる授業」を学習指導の工夫・改善に努める。	各教科において、授業研究など学習指導について工夫・改善がなされている。	3.7	4.3	教科の内容を充実させるために、授業のあり方について多方面から考察していく。	左記の3項目は自己評価が低く、難しい分野であると思われるが、研鑽を積んで頂きたい。「干渉種学」を実施する場合は、地域の人材等を活用して欲しい。協力者は多いはずである。近隣に水力発電所があることを知らない生徒が多いのではないか。ぜひ学習すべきである。
11	教科の枠を超えた授業の公開や研修会によって相互に研鑽する。	2.9	2.7	学期毎に授業公開週間、研究授業を実施し、実施後に意見交換する機会を義務づける。	
12	地域の人材や素材を活用した特色ある授業の取り組みを行う。	4.0	3.9	千種中学校が実施する「千種学」を参考に、これまでの固定化された内容に留まらず新たな分野を開拓し、新たな特色づくりに取り組む。	
13	生徒の実態や能力に応じて、個に応じたきめ細かい学習指導を実践する。	4.0	4.1	ベーパーリング、アクティブラーニングの授業では授業者のみならず、生徒のそばで授業理解を支援する補助教員のさらなる確保が必要である。	
14	課題や宿題の指導を通して、家庭学習の習慣化を図る。	3.1	3.1	家庭学習の仕方が分からない生徒もいるのでその指導も必要。週末課題の実施点検や生活行動記録表などを活用し、家庭学習の習慣化を図る。	自己評価、改善策は適切である。改善策にあるように、進路選択では「3年間を見通した計画的な指導体制」のもと、生徒と保護者、担任と面談を数多く実行してもらいたい。家庭学習を習慣化できない生徒が多くなることについては、小中学生に配布されている「家庭学習の手引」を活用できなにか。漢字検定は少しのヒントを教師が生徒に与えれば、自主的に取り組みやすくなるのではないか。
15	適切な学習指導と家庭学習の習慣化を図り、個々の生徒の進路実現を支援する。	4.0	4.0	自己の将来のために基礎学力や資格がいかにかに必要であるかということを教え込み、やらされるのではなく、自ら進んで取り組む意識を高揚させる。	
16	家庭連絡や家庭訪問を通して、保護者との情報交換や意思の疎通を図る。	3.4	4.0	全家庭を家庭訪問する等、夏季休業中の面談以外にも担任と保護者が面談する機会を増やす。3年間を見通した計画的な指導体制を確立する。	
17	生徒の進路希望を達成するために、情報の収集や提供を行い、適切な進路指導を行う。	3.8	4.2	進路指導部と学年との連携を密にして進路LHRを計画、実施する。また進路検討会（進学・就職）の機会を増やす。	
18	マナーや規律、規範意識を高める取組を、ホームルーム、生徒会活動等で行う。	4.0	3.9	校則違反、器物破損はほぼ皆無となった。生徒に自分自身や母校に対する誇りを持たせることで一層規範意識を高めたい。	自己評価はやや高いように思われるが、改善策は適切である。社会に出て通用するよう人間関係を生徒が高校時代に築けるよう教員は支援してほしい。最も心配されるのが携帯電話、スマートフォンの使用に伴うトラブルである。その危険性について、関係機関と連携し、定期的に意識付けをすべきである。「カウセン」を全生徒に体験させる」とあるが、これは是非実行してでもらいたい。ただし、カウセンを受けたい生徒を個々に特定できない配慮をお願いしたい。防災教育、安全教育は学校内のみで取り組む問題ではなく、地域と連携した内容であって欲しい。
19	生徒一人ひとりの役割や居場所を、クラスの中や様々な教育活動の場において設定する。	3.8	3.8	ホームルーム選出の委員やアッパーキャプテンを校外でも実施させる。	
20	生徒の個人面談や、日頃の声かけ指導を積極的に行う。	4.1	3.8	効果的な声かけ、思いが伝わる声かけの在り方について、個々の教員で悩まず、教員間で意見交換する機会を設ける。	
21	互いを認め合う望ましい人間関係を築き、安心・安全な学校環境を構築する。	3.8	3.7	年度当初のホームルーム計画作成時に防災教育の計画を盛り込む他に、日々の授業、SHR等において全教員が防災、安全教育を意識した発言をするよう心がける。	
22	人権に関わる課題を知識として学ぶだけでなく、日常生活において態度や行動に現れるよう人権感覚の育成に努める。	3.9	3.7	人権LHRを充実させるだけでなく、他者とのつながりを通して生徒が人権感覚を自己の力で身につけられるよう、学校生活全般を通じて支援していく。	
23	教育活動全般を通じて、情報の活用に伴う情報モラルの育成に努める。	3.6	3.6	スマートフォンの普及により生徒間の情報交換手段が複雑化し、人間関係を損なう等危惧することが多い。情報モラルの指導について関係機関と連携し徹底したい。	
24	キャンパスカウセンラーと連携を密に取り、悩みを抱える生徒の支援体制を作る。	3.8	4.3	カウセンラーの指導内容を必要部署等と共有する。生徒が相談しやすい環境づくりに一貫として、年度当初にカウセンラーを全生徒に体験させる。	

# Ⅷ 平成24年度年間実施行事

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
1	水	1	火	1	金	1	日	1	水	1	土
2	木	2	水	2	土	2	月	2	木	2	日
3	火	3	木	3	日	3	火	3	金	3	月
4	水	4	金	4	月	4	水	4	土	4	火
5	木	5	土	5	火	5	木	5	日	5	水
6	金	6	日	6	水	6	金	6	月	6	木
7	土	7	月	7	木	7	土	7	火	7	金
8	日	8	火	8	金	8	日	8	水	8	土
9	月	9	水	9	土	9	月	9	木	9	日
10	火	10	木	10	日	10	火	10	金	10	月
11	水	11	金	11	月	11	水	11	土	11	火
12	木	12	土	12	火	12	木	12	日	12	水
13	金	13	日	13	水	13	金	13	月	13	木
14	土	14	月	14	土	14	日	14	火	14	金
15	日	15	火	15	金	15	日	15	水	15	土
16	月	16	水	16	土	16	月	16	木	16	日
17	火	17	木	17	日	17	火	17	金	17	月
18	水	18	金	18	月	18	水	18	土	18	火
19	木	19	土	19	火	19	木	19	日	19	水
20	金	20	日	20	水	20	金	20	月	20	木
21	土	21	月	21	土	21	日	21	火	21	金
22	日	22	火	22	金	22	日	22	水	22	土
23	月	23	水	23	土	23	月	23	木	23	日
24	火	24	木	24	日	24	火	24	金	24	月
25	水	25	土	25	火	25	木	25	日	25	水
26	木	26	日	26	水	26	金	26	月	26	土
27	金	27	月	27	火	27	水	27	木	27	日
28	土	28	火	28	金	28	日	28	火	28	土
29	日	29	水	29	土	29	月	29	木	29	日
30	月	30	木	30	日	30	火	30	金	30	月
31	火	31	土	31	月	31	水	31	土	31	日
1	土	1	日	1	月	1	火	1	金	1	土
2	日	2	月	2	火	2	水	2	木	2	金
3	月	3	火	3	水	3	木	3	金	3	土
4	火	4	水	4	木	4	金	4	土	4	日
5	水	5	木	5	金	5	土	5	日	5	月
6	木	6	金	6	土	6	日	6	月	6	火
7	金	7	土	7	日	7	月	7	火	7	水
8	土	8	日	8	月	8	火	8	水	8	木
9	日	9	月	9	火	9	水	9	木	9	金
10	月	10	火	10	水	10	木	10	金	10	土
11	火	11	水	11	木	11	金	11	土	11	日
12	水	12	木	12	金	12	土	12	日	12	月
13	木	13	金	13	土	13	日	13	月	13	火
14	金	14	土	14	日	14	月	14	火	14	水
15	土	15	日	15	月	15	火	15	水	15	木
16	日	16	月	16	火	16	水	16	木	16	金
17	月	17	火	17	水	17	木	17	金	17	土
18	火	18	水	18	木	18	金	18	土	18	日
19	水	19	木	19	金	19	土	19	日	19	月
20	木	20	金	20	土	20	日	20	月	20	火
21	金	21	土	21	日	21	月	21	火	21	水
22	土	22	日	22	月	22	火	22	水	22	木
23	日	23	月	23	火	23	水	23	木	23	金
24	月	24	火	24	水	24	木	24	金	24	土
25	火	25	水	25	木	25	金	25	土	25	日
26	水	26	木	26	金	26	土	26	日	26	月
27	木	27	金	27	土	27	日	27	月	27	火
28	金	28	土	28	日	28	月	28	火	28	水
29	土	29	日	29	月	29	火	29	水	29	木
30	日	30	月	30	火	30	水	30	木	30	金
31	月	31	火	31	水	31	木	31	金	31	土

## Ⅸ 兵庫県立千種高等学校校歌の作詞者と作曲者について

教頭 原田 尚昭

本校の校歌は、昭和 38 年 4 月 1 日に「千種分校の歌」として制定されました。作詞：松井利男先生、作曲：秋月直胤先生という、当時の校歌制作者として有名なお二人によって作られたものです。千種高校生の「心のふるさと」として、この校歌がいついつまでも愛され続けることを願うとともに、この素晴らしい贈り物をこの世に生み出してくださったお二人の先生がどんな方々だったのかということが少しでも伝われば、という想いでこの一文を編ませていただきました。（本校HPには既に掲載させていただいております。）

### 1 作詞者：【松井利男（まつい としお）先生】

松井先生は、明治 43 年（1910 年）4 月に現在の赤穂市有年の牟礼でお生まれになり、県立農業高校に学び、昭和 7 年に早稲田大学高等師範部国語漢文科をご卒業になりました。新浜村立新浜尋常高等小学校（現在の赤穂市立御崎小学校）を皮切りに、県立赤穂高等女学校、県立第二神戸中学校・県立兵庫高等学校、県立姫路東高等学校の国語科教諭として活躍をされています。その後、県教育委員会指導主事、県立姫路西高等学校教頭、県立教育研修所次長を歴任され、昭和 36 年に姫路商業高等学校の初代校長となりました（昭和 36 年 4 月～昭和 40 年 3 月）。従って、本校の校歌を作っていた際には姫路商業高校の校長先生でいらっしやいました。その後、県教委教職員課長等を経て昭和 43 年に教育次長となられ、本県の教育行政に辣腕を振るわれました。昭和 45 年 4 月 9 日に兵庫県民会館で行われた「高校生の社会意識」と題するご講演は、当時「日本講演会」が発行した『日本講演：日本一の名講演集』（同年 5 月 11 日号）という冊子の中に収められており、今でも読むことができます。また、同年 11 月 3 日、先生の郷里に近い赤穂郡上郡町（町役場前）に建立された大鳥圭介先生の銅像台座に刻まれている碑文「顕彰のことば」を撰び、記されています。なお、若い頃から晩年に至るまで国語教育に関する著作が幾つかあり、『文法の指導計画：主として小学校における』（1955、光風出版）、遠藤嘉基氏との共著で『古典解釈文法』（1985、和泉書院）、『わたくしたちのことばと文法 口語篇～口語品詞編』（1952～53、文教出版）、『ことばと文法[1]～[3]』（1955、文教出版）等が挙げられます。

もう一点先生に関して特筆すべきは、その生涯を通じて同和問題に深く傾注された方であったということです。教育次長であると同時に、当時県庁内に設置された「同和教育指導室」（現在の人権教育課）の初代室長として大いなる指導力を発揮され、現在の同和教育立県「兵庫」の基礎固めとなる同和教育精神の確立、同和教育資料の編纂は勿論のこと、各界各層における同和问题学習会での指導助言やご講演は 100 回以上にも及んだということです。本校第 3 代校長の樫本玉男先生と第 4 代校長の上山勝先生は、当時同和教育行政或いは委員会活動等を通じて直接先生の警咳に接し、薫陶を受け、兵庫県下各地の講演旅行に同行し、鍛えられ、「今の自分があるのは松井先生あったらこそ。」と強い尊崇の念を寄せておられます。正に兵庫県同和教育推進の羅針盤的存在でありました。

昭和 46 年 3 月をもって教育次長をご退職になった後も、兵同協会長や姫路学院女子短期大学副学長等の要職を歴任され、尚且つ複数の大学で教鞭を執っておられました。先生は、昭和 62 年 2 月に 78 歳でお亡くなりになったのですが、同年 11 月には元同僚・後輩及び教え子等が相集い、「松井利男記念論文集刊行会」の編で、『同和教育論 松井利男と兵庫県同和教育運動』（1987、草風館）という本が出版されています。

### 2 作曲者：【秋月直胤（あきづき なおかず）先生】

秋月先生は、昭和 26 年 4 月から 36 年 3 月まで山崎高校で音楽の教諭をされていた方です。従って、千種分校でも教鞭を執っておられました。山崎高校の卒業生（現在 50 歳以上の方々）ならば誰もが口ずさむことのできる名曲「山崎高校生徒会歌」（昭和 27 年、作詞：小倉悠丘・作曲：秋月直胤、分校歌制定まで約 10 年間千種分校でも歌っていた）の

作曲をされた方でもあります。が、実は、秋月先生が山崎に来られたのはもう不惑の年を越えられてからのことであり、また、ご自身の来歴について多くを語る方ではありませんでしたので、それ以前のことを知る人は山崎にはほとんどおられません。

先生は岡山のご出身（漢学者のご家庭）で、上野の東京音楽学校（現在の東京芸術大学）声楽科を首席で卒業し、1年先輩には藤山一郎がいました。山田耕筰先生の推薦で歌謡界の花形「コロンビアレコード」に入り、戦前にはかなり人気のある歌手であられたのです。芸名「青山薫」。これは、当時第一級の詩人であった西条八十先生から頂いたものでした。同社には、淡谷のり子、伊藤久男、ミスコロンビアらがいて、後に有名になる霧島昇などは青山薫の付け人であったということです。青山薫時代の歌声は、今でも YouTube で一曲だけですが、「輝く満州」という名で検索すれば聴くことができます。その後、レコード会社を離れてクラシック界に復帰し、特に山田耕筰先生が自作の歌曲を発表される際には、藤山一郎や二葉あき子らと共に、バリトン独唱者として必ず先生を出演させていたということです。大東亜戦争が勃発し、戦況が悪化する中で、戦中・戦後の数年間は郷里の岡山に疎開しておられましたが、昭和 23 年に大阪音楽大学から声楽部長・教授として招聘され、音楽教育に精を出されました。然し、その後如何なる理由でか大学を退き、新設音楽大学の設立計画に奔走するも成就せず、山崎高校に来られたようです。尚、奥様も共に山崎に来ておられましたが、元首相にして蔵相・高橋是清の姪でありました。

秋月先生は、山崎高校時代に何度か生徒の前で独唱され、単なる声楽家を遥かに超えた非常に精妙なる歌声で多くの聴衆を魅了されたというエピソードが幾つか残っています。山崎高校 8 回生（昭和 31 年卒）で元広島大学教授（ドイツ文学）の武田智孝氏（山崎町高下のご出身）はご自身のHP『ドイツ文学散歩』の中で、入学式の時に聞いた秋月先生の独唱による国歌「君が代」は、これが人の声であろうかと思うほどのすばらしい美声であったと書き、その後長年にわたって何度も本場のヨーロッパで数多くの方の歌曲を聞いたが、あの時秋月先生から受けた感動を超える歌声には未だ出逢ったことはないとも語っておられます。また、11 回生（昭和 34 年卒）で高校 1・2 年次の担任が秋月先生であったという村上紘揚先生（宍粟市教育委員・元山崎高校長）は、文化祭でタキシードに蝶ネクタイという装いで壇上で独唱されていた姿が今でも脳裏に焼き付いているとおっしゃっています。普段の服装も非常にお洒落で、山崎の町ではよく目立つ方でもあったようです。

山崎高校に約 10 年間おられて数多くの生徒を大阪音大へ進学させた後、昭和 36 年 4 月に新設の県立姫路商業高校（6 月まで姫路西高内の仮校舎）へ異動され、この時初代校長の松井先生と出会われて希代の校歌コンビが誕生するのです。姫路商業高校には、昭和 44 年 3 月の定年退職までの 8 年間に加えて、昭和 46 年 3 月までの講師期間、計 10 年間お勤めになったのですが、その間姫路を舞台にして「播磨芸術文化運動」とでも言うべき動きの中心的存在として活躍され、姫路城昭和の大修理・修築記念事業で自作の「白鷺城賛歌」を上演され、姫路出身の小説家・椎名麟三氏作「姫山物語」のミュージカル作曲やオペラ「修禅寺物語」等を発表されています。また、昭和 40 年（1965 年）に第 3 回姫路文化賞を受賞されてもいます。その当時の先生のご様子は、現在「姫路文学人会議（「文芸日女道」を刊行）」の主宰者である市川宏三氏の手になる『たゆらぎ山に鷺群れて』（北星社）の中に幾度となく登場し活写されており、市川先生に伺うと、「とにかく歌唱指導に卓越した方だった。また、歌詞を見ればメロディーが頭の中に閃き、ピアノからすぐに曲が生まれるという技は、如何なる作曲の名手として決して真似のできないものであった。こんなに優れた才能をお持ちの方が何故中央（東京）で活躍されないのかと皆不思議に思っていた。」とのことでした。つまり、その当時姫路で秋月先生の指導を受けた方々は、先生が戦前コロンビアレコードの専属歌手であったなどということは全く聞いたことがなかったということです。姫路商業の後、埼玉県にご息子が居られた為居を移され、昭和 48 年に埼玉県立川越高校音楽講師に迎えられたりしながら関東で活動されていたということです。没せられたのは昭和 63 年（1988 年）11 月。生年が明治 44 年（1911 年）ですので、齢 78 歳喜寿の翌年。

### 3 【校歌づくりの名コンビ】

前述のように、松井先生と秋月先生は校歌づくりの名コンビでした。少し調べただけでも、姫路商業高校は当然として、この西播磨一円で両先生の名を冠する校歌（小学校・中学校）が如何に多いことか。本当に驚くばかりです。詞と曲の面で分野は違えど互いの才能をよく見抜いたが故に響き合うところ大であったのではないかと察せられます。奇しくも両先生は生没年がほぼ同じであり、共に 78 年のご生涯。異なった分野で活躍しながらも、姫商を舞台に互いの人生を交差させながら校歌づくりにいそしんでおられたことは間違いありません。校歌というものは、正に創立当時の熱意や学校に対する地域の期待を一身に背負ったものです。松井先生の典雅なる詞と、秋月先生の澁刺颯爽としたリズムカルな曲が見事な調べとなって、この後 100 年経っても 200 年経ってもいついつまでも、それぞれの学び舎に集う若者たちに大いなる勇気と誇りを与え続けてくれるであります。



松井利男先生



秋月直胤先生

### 4 【千種分校生の校歌に対する想い】

千種高校は昭和 50 年に独立を果たし、「兵庫県立千種高等学校」となるわけですが、それまでの分校時代に本校と分校の関係及び校歌の位置づけが如何なるものであったかがわかる貴重な証言が、育友会報「敷草」の中に残っています。

「卒業式に千種分校の校歌を歌いたかった」 昭和 42 年度卒業生

昔は入学式も卒業式も本校で行っていたので、山崎高校の校歌を歌わなければならないのですが、私達は習っていなかったので歌えませんでした。千種分校の校歌は今の千種高校の校歌と同じです。式典などでは歌ったことはありませんが、音楽の時間に 2、3 回歌いました。歌詞やメロディーはスーと出て来ます。思い出の曲みたいです。卒業式には歌えるといいなと思っています。生徒達が有意義で楽しい生活を送れますよう、先生方よろしくご指導お願いします。 （「敷草」第 35 号：平成 7 年 7 月 20 日発行）

現在の校歌は、分校時代には「千種分校の歌」と呼ばれていました。制定された昭和 38 年の「千種分校学校要覧」には、当時本校及び分校で書道を教えておられた大岩祥峰先生が細筆で書かれた歌詞が残っています。なお、この匿名の文で「山崎高校の校歌」とされているのは「山崎高校生徒会歌」（作詞：小倉悠丘、作曲：秋月直胤）のことで、昭和 54 年に現在の校歌が制定されるまで歌われていたものです。いずれに致しましても、当時の分校生の切なる想いがよくわかり、それだけに昭和 50 年 4 月の独立の喜びが如何に大きなものであったかが察せられます。

※この一文以外にも、校歌の音声ファイルに関わるエピソードや松井先生についての資料を本校 HP 上に掲載いたしております。どうぞご覧下さいませ。

【資料 1 : 千種中学校・千種高等学校校歌】

**中**

**実栗市立千種中学校校歌**

作詞 安田 青風  
作曲 樋口 昌道

一 日名倉は 天にほほえみ  
敷草は 地にささやきて  
ものみなが よるこび育つ  
ああゆかし 千種の里よ

二 朝の日の 窓にかがやき  
夕月の 校庭染めくれば  
靴かろく ゆきてかえらん  
ああたのし わが学び舎よ

三 知を磨き 情につちかい  
人のため 世のためつよく  
生きゆかん 一つ心に  
ああわれら 若きいのちを

**高**

**兵庫県立千種高等学校校歌**

作詞 松井 利男  
作曲 秋月 直胤

一 緑すがしき 山脈の  
極みに高し 三室山  
厳しきすがた 仰ぎつつ  
真理求めむ われらみな  
ああ 千種 千種

二 みなもと遠き 敷草の  
歴史榮あり 千種川  
清き思みを 讃えつつ  
自主敬愛の 道行かむ  
ああ 千種 千種

三 天地の正気 澄むところ  
ああ秀麗の 三の丸  
千古のすがた 望みつつ  
理想に生きむ われらみな  
ああ 千種 千種  
われらが母校

【資料 2 : 兵庫県立姫路商業高等学校校歌】



**商**

**兵庫県立姫路商業高等学校校歌**

松井 利男 作詞  
秋月 直胤 作曲

一、青雲遙けき 播磨の海は  
文化の潮の 脈うつところ  
産業日本を 導きここに  
世界を結ばむ 母校の使命  
ああ 自主の道を 共にさきがけ  
栄えある校風 築かむわれら  
姫商 姫商 ああ 姫路商業高校

二、真白に聳ゆる 五層の城を  
振り掛け仰げば 光を満つる  
伝統正しく 承け継ぎここに  
現世を厳しく あしたを開く  
いざ 友よ 友よ 希望に燃えて  
無限の創造 讃へむわれら  
姫商 姫商 ああ 姫路商業高校

三、池面を清けき みどりの丘は  
心の故郷 カの泉  
ひとしき 理想に 挙りてここに  
敬愛の誓ひ 今ぞ花咲く  
いざ 声揃へて 久遠の友情  
母校の栄えを 誦はむわれら  
姫商 姫商 ああ 姫路商業高校

松井先生と秋月先生は、西播磨の小学校及び中学校において数々の校歌を作っておられるが、県立高校の校歌は千種高校と姫路商業高校のみである。千種高校校歌の制定は昭和38年4月1日、姫路商業高校は同年11月25日である。なお、千種高校校歌の2番に、「自主敬愛の道ゆかむ」という行がある。言うまでもなく、本校の中心に鎮座する石碑文字（第4代校長・上山勝先生揮毫・昭和62年2月15日建立）の典拠であるが、姫路商業高校の校歌1番に「自主の道」、3番に「敬愛の誓ひ」が見える。即ち、その生涯を通じて兵庫県同和教育の発展に命を燃やされた、作詞者である元兵庫県教育次長・松井利男先生（現姫路商業高校初代校長）が最も大事にされた信念の言葉であり、幼少の頃より培われてきた生活信条なのである。

「自主敬愛の道」— これは、両校の校歌に相通ずる松井先生魂の言葉として心して感じたい。（平成25年2月10日 記）

## 編集後記

昨年5月のとある昼下がり、本校事務室横にある倉庫でのことでした。昭和60年頃の古びた「千種高校展望」を手にして当時の記録に目を走らせていた私は、第4代校長上山勝先生の講話録に釘付けとなったのです。昭和63年10月8日発行の「第17号」に、その年の夏休み中8月20日に全校生に向けて為された校長講話「愛とは行うこと」の内容が、まぎれもない「日航ジャンボ機墜落事故(昭和60年8月)」でお嬢様を亡くされた、三木市総合隣保館長の田中先生からの手紙を紹介したものであったからです。

現在高校生用の人権教育教材として『HUMAN RIGHTS』が編まれています。その旧版以前に私たちは『生き方の探求』を用いていました。その中に挿入教材として「娘の遺してくれたもの」と題する一文があり、何度も読み返しては同和教育(地改対) LHRで生徒と共に考え語り合った、私にとっては若き教師であった頃の忘れ得ぬ珠玉の教材であったのです。その原典に、私は教頭として赴任した千種高校で思いもかけず出逢い、発掘し得たのです。人知れず落涙しようかと思うほどの感激を覚えたのですが、その講話録以外にも「千種高校展望」は、それぞれの時代時代の千種高校の歩みを確かに記録し、同時に発行されていた育友会報「敷草」と共に、実に味わい深い文章が多く、正に「寶の蔵」・「智慧の泉」であったのです。

私たちが携わっている学校教育は、今日の前にいる生徒たちが最も大切であり、常に今日的な問題に対応すべく研鑽を積むことが肝要であります。が、今実践していることを記録に残し、後世の為に積み重ねてゆくことも又大事なことであると思います。過去の「展望」や「敷草」には、今読み返すと実に多くのヒントがあり、今後の千種高校の発展を模索する上で貴重な史料となっています。横糸と縦糸がうまく重なり合うことで、学校も確かな歩みを進めることができるのではないのでしょうか。それは、「生む」「育てる」「鍛え伸ばす」という子育てにも通ずる面があり、何事であれ中断させることなく「続ける」ことがいづれ花を咲かせることに繋がるのだと思います。一年間のあゆみをまとめるという作業は確かに煩雑ですが、司馬遷がその苛酷な運命にも決して屈することなく『史記』を編み書き上げたのは何故であったのかということに思いを致し、この「千種高校展望」が再び齢を重ねていくことを願うものです。

今回の「第87号(復刊第1号)」を編集するにあたって、年度末の忙しい時期にも拘わらずそれぞれの実践記録を寄せてくださった本校の先生方に感謝します。また、それぞれの記録にもありますように、本校の教育活動を常に支えていただいている地域の数多くの皆様、宍粟市立千種中学校、宍粟市教育委員会、兵庫県教育委員会の皆様に厚くお礼を申し上げます。

教頭 原田 尚昭

---

# 千種高校展望 第87号(復刊第1号)

—平成24年度活動の記録—

平成25年3月29日 印刷

平成25年3月31日 発行

編集 「千種高校展望」編集委員会

発行 兵庫県立千種高等学校 校長 浅田尚宏

〒671-3201 兵庫県宍粟市千種町千草727-2

TEL (0790)76-2033(代) FAX (0790)76-2233